

大田区地域福祉活動計画 推 進 委 員 会

(令和7年度 第2回)

○日 時：令和7年12月8日（月）
10時00分～12時00分
○会 場：大田区社会福祉協議会
4階会議室

1. はじめに（進行：事務局）

2. 委員長挨拶

3. 新任委員の紹介

資料1

4. 審議事項（進行：委員長）

（1）令和7年度住民懇談会開催報告について

資料2-1・2-2

（2）アンケートの結果報告について（住民懇談会・OTA ふれあいフェスタ）

資料3-1・3-2

（3）第7次大田区地域福祉活動計画の進行管理について

資料4

5. 連絡事項その他

（1）イベント開催のお知らせ

（ボランティアのつどい2025・おおた地域福祉フォーラム）

（2）次回開催予定：令和8年5月頃

大田区地域福祉活動計画推進委員会 委員名簿

令和7年12月1日現在 敬称略

	氏 名	選出母体・役職等
委員	黒 岩 亮 子	学識経験者(日本女子大学 教授)
委員	吉 野 鷹 夫	大田区自治会連合会
委員	樋 口 幸 雄	大田区自治会連合会
委員	常 安 雅 彦	大田区民生委員児童委員協議会会長
委員	杵 鞭 勝 彦	NPO法人大身連
委員	川 崎 洋 子	大田区精神障害者家族連絡会会長
委員	橋 本 朋 子	大田区肢体不自由児(者)父母の会会長
委員	宮 田 千寿子	大田区重症心身障害児(者)を守る会会長
委員	閑 製 久美子	大田区手をつなぐ育成会会長
委員	沼 本 光 史	大田区シニアクラブ連合会
委員	村 山 美智恵	大田区食事サービス連絡会会長
委員	中 野 真 弓	NPO法人おおた市民活動推進機構代表理事
委員	齋 藤 弘 美	社会福祉法人大洋社理事長
委員	佐 藤 正 浩	大田区生活再建・就労サポートセンター JOBOTA所長
委員	浜 洋 子	NPO法人大田区介護支援専門員連絡会
委員	西 嶋 美 波	東京都社会福祉協議会 地域福祉部地域担当
委員	山 浦 賢 一	大田区福祉部

みんなで話そう！ 地域でつながろう！

令和7年度 住民懇談会



大田区社協イメージキャラクター あいちゃん

大田区社会福祉協議会

昨年度の住民懇談会の意見のまとめ①

【つながりづくり】

身近なところからできる「あいさつ・声かけ」の意見が最も多く出ましたが、「つながりづくり」では、子どもや高齢者、男性など特定の人を対象とした意見、イベントや活動といった機会を活用する意見、共通の趣味やテーマによる交流の意見も見られました。

また、課題として、マンション住民と地域のつながりや地域情報の周知・発信についての意見が見られました。

- 特定の対象、機会、テーマによる「つながりづくり」のニーズがある。
- つながりをつくりづらい住民・コミュニティとの関係構築に課題がある。
- 地域の情報が十分に伝わっていない状況がある。



昨年度の住民懇談会の意見のまとめ②

【居場所づくり】

「居場所」については、「男性の居場所」についての意見が最も多く、誰でも集まれる「集いの場」の意見が見られたほか、居場所の情報に対する意見も見られました。

交流や活動の拠点や場については、既存施設の貸出や活用など場の確保、特徴、助成金といった制度面での意見が見られました。

また、子どもに関わる意見として、子ども食堂の拡充・活用、外国籍の子ども・世帯への支援についての意見が見られました。

- 男性の居場所や誰もが集える場のニーズがある。
- 地域の居場所の情報不足している。
- 交流や活動の拠点や場の確保・開拓が求められている。
- 子ども食堂、外国籍の子どもなど子どもへの支援活動の意見は多い。



3

昨年度の住民懇談会の意見のまとめ③

【支えあい】

地域の見守り・支えあい・ボランティアに関わる「人材・担い手」の不足や育成についての意見が多く、災害時の支えあいについても意見が出されました。

また、福祉的な支援を必要としている人が増えている意見に加え、支援につなげるための相談や相談機関との連携、その情報についての意見が見られました。

- 地域の支えあいの「人材・担い手」は依然として不足している。
- 相談や支援について地域の中で情報共有を深める必要がある。



4

昨年度の住民懇談会の意見のまとめ④

【自分らしく生きる】

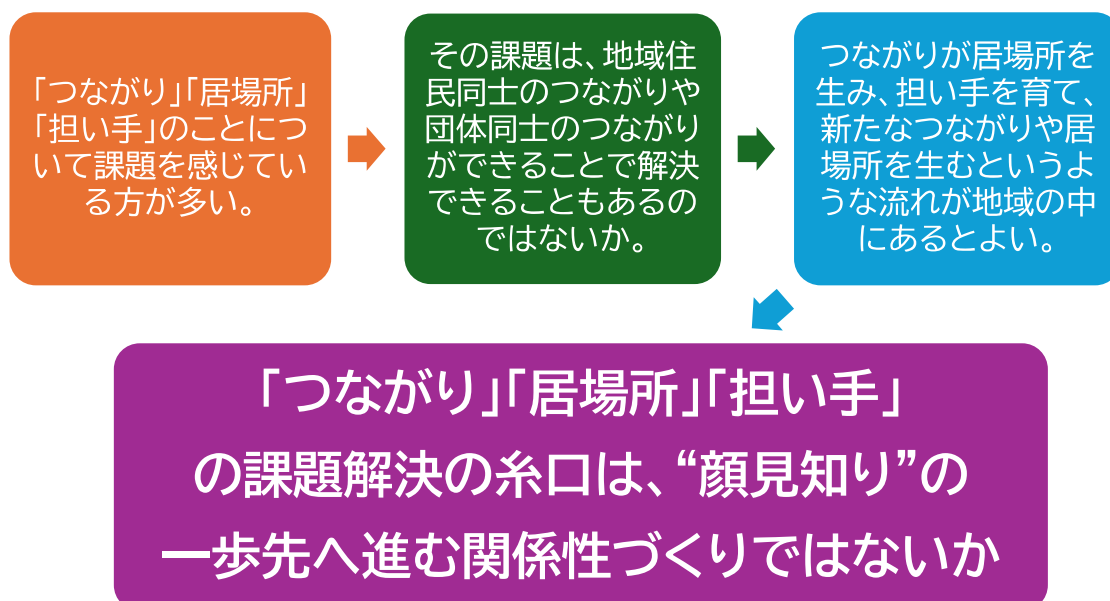
自分らしく生きていくために、人とのつながりや自身のスキルを活かした活動・生きがいづくりの必要性のほか、他者の尊重、福祉的な支援の制度・仕組みについての意見も見られました。

- 人とのつながり・交流の重要性が挙がっている。
- 自身のスキルを活かせる機会の創出、生きがいづくりの必要性が挙がっている。
- 自分らしく生きられる環境や制度・仕組みの意見が出ている。



5

これまでの取組から見えてきたこと



6

今回の住民懇談会のテーマ 「“顔見知りの一歩先”へ進むには？」

・地域の中にある課題(孤立・孤独、つながりの希薄化、役割の担い手不足など)について

・「つながり」「居場所」「担い手」などをキーワードに
・“顔見知り”の関係から一歩進んで、共に地域の課題解決に向けて動けるような関係性を築くためにできることを一緒に考え、意見を出し合ひましよう

例えば・・・

☆地域で活動する団体の横の連携をつくる

☆ご近所で小さなお茶会開催 など



7

住民懇談会当日の様子



8

大田区社会福祉協議会 2025 年度 住民懇談会 意見分類

1. 実施概要

2025 年度の住民懇談会は、「“顔見知り”の一步先へ進むには？」を話し合いのテーマに、7 月末から 8 月頭にかけて区内 4 地域で開催しました。住民懇談会の案内は、大田区社協 HP での告知をはじめ、社協職員からの紹介やチラシの配布等を通じて行いました。

参加者数の合計は 70 人で、地区別にみると蒲田地域と調布地域が 24 人で最も多くなっています。参加者数は 2024 年度の 61 人に対し 9 人の増となっています。

地域	日時・会場	グループ数	参加者数
大森地域	【日時】7月27日(日)14時～16時 【会場】入新井集会室大集会室	4グループ	13人
糀谷・羽田地域	【日時】7月29日(火)14時～16時 【会場】羽田地域力推進センター会議室	2グループ	9人
蒲田地域	【日時】7月31日(木)18時～20時 【会場】大田区社会福祉センター4階会議室	5グループ	24人
調布地域	【日時】8月1日(金)14時～16時 【会場】調布地域庁舎1階会議室	4グループ	24人
合計			70人

2. 意見の件数

意見数の合計は 599 件で、地区別にみると調布地域が 213 件で最も多くなっています。

意見数は 2024 年度の 474 件に対し 125 件の増となっています。

(単位：件)

	大森地域	糀谷・羽田地域	蒲田地域	調布地域	合計
意見数	122	57	207	213	599

3. 小テーマ（リボン計画の基本目標）ごとの件数

意見交換にあたっては、話し合いのテーマに対して、第 7 次大田区地域福祉活動計画（リボン計画）の基本目標をもとにした 4 つの小テーマの設定し、それぞれの観点から意見をいただきました。

一部、小テーマ別に整理ができなかった意見を除いた小テーマごとの意見数は、「つながりづくり」が 215 件で最も多く、「居場所づくり」が 156 件、「支えあい」が 92 件、「自分らしく生きる」が 77 件となっています。

(単位：件)

	全体	小テーマごとの件数※			
		つながりづくり	居場所づくり	支えあい	自分らしく生きる
意見数	599	215	156	92	77

※上記、小テーマの件数は、小テーマとは別にグループ内の話し合い内容に沿って整理を行った意見 56 件と、どのテーマに対しての意見か不明な意見 3 件を除いた件数となります。

4. 2024 年度結果との参考比較

2025 年度は、一部の意見が、小テーマ別に整理ができなかったこと、また、年度で意見の傾向が異なることに伴い分類を変更していることから、参考での比較となります。

(1) 意見数について

2024 年度と 2025 年度の結果を比較すると、「つながりづくり」に関する意見で大幅な増加がみられた一方で、「居場所づくり」に関する意見で減少が見られました。

(参考) 2025 年度と 2024 年度の小テーマごとの意見数の比較

(単位：件)

年度	全体	つながりづくり	居場所づくり	支えあい	自分らしく生きる
2024 年度	474	163	162	82	67
2025 年度	599	215	156	92	77

(2) 大分類ごとの意見数について

2024 年度、2025 年度ともに上位 3 位までの分類は同様な傾向を示していますが、2025 年度は「相談・支援」に関しての意見が多くなっています。

(参考) 2025 年度と 2024 年度の大分類ごとの意見数の比較

(単位：件)

2024 年度 大分類		2025 年度 大分類	
項目	件数	項目	件数
交流・関係づくり	150	交流・関係づくり	126
活動・参加	66	活動・参加	111
拠点・居場所	54	拠点・居場所	108
子ども・子育て	41	相談・支援	79
情報	33	子ども・子育て	57
共生・多様性	28	共生・多様性	34
相談・支援	26	情報	28
人材・担い手	22	意識・考え	27
防災・防犯	12	人材・担い手・キーマン	23
見守り・支えあい	11	その他	6
制度・仕組み	10	総計	599
連携・協働	8		
その他	13		
総計	474		

5. 2025 年度結果の意見の分類

意見の分類にあたっては、意見内容から 29 の小分類に整理し、さらに意見内容が近い小分類同士を 10 の大分類に整理・まとめました。なお、一部の意見が、小テーマ別に整理ができなかったことから、小テーマ別ではなく、全体での分類・整理・分析となっています。

意見の件数をみると、大分類は＜交流・関係づくり（126 件）＞に関する意見が最も多く、次いで＜活動・参加（111 件）＞、＜拠点・居場所（108 件）＞と続いています。小分類は、大分類と同様に「制度・仕組み・方法（71 件）」に関する意見が最も多く、次いで「意識・考え（54 件）」、「特徴・機能（44 件）」と続いています。

小分類 \ 大分類	交流・関係づくり	活動・参加	拠点・居場所	相談・支援	子ども・子育て	共生・多様性	情報	意識・考え	人材・担い手・キーマン	その他	総計
あいさつ・声かけ	20										20
イベント・テーマ型の交流	19	19			5						43
その他					6					2	8
意識・考え	3	1	2	15	7			26			54
学び・研修		9									9
活動・参加	1	27	3		3	5					39
顔の見える関係づくり	15										15
拠点・居場所			17		11	1					29
共生・多様性						10					10
見守り・支えあい				18							18
個人情報の問題							2				2
交流・関係づくり	21			1	2	2					26
子ども食堂の活動・活用			1		10						11
施設・場所の活用			16		1						17
自治会・町会	1	13	1				2				17
集いの場づくり			6								6
住民懇談会		4									4
情報の発信・共有	5	3	6	2	1		20				37
人・属性		4		5		6				4	19
人材・担い手・キーマン					1				18		19
世代間交流	9										9
制度・仕組み・方法	15	18	15	10		5	3	1	4		71
相談・支援の取組				13							13
多様な人・世帯への支援				10	5	5					20
男性の交流・活動	1	11	2						1		15
地域のつながり	11										11
特徴・機能	3	1	35	1	4						44
防災・防犯				3			1				4
連携・協働	2	1	4	1	1						9
総計	126	111	108	79	57	34	28	27	23	6	599

※上記表中の小分類「イベント・テーマ型の交流」、「意識・考え」、「活動・参加」、「拠点・居場所」、「共生・多様性」、「見守り・支えあい」、「交流・関係づくり」、「子ども食堂の活動・活用」、「施設・場所の活用」、「人・属性」、「人材・担い手・キーマン」、「制度・仕組み・方法」、「多様な人・世帯への支援」、「男性の交流・活動」、「特徴・機能」の件数には、特に子ども・親、外国につながりある方などに関しての意見を合計した数となっています。

(1) 交流・関係づくり (126 件)

＜交流・関係づくり＞の内訳をみると、13 の小項目が該当し「交流・関係づくり (21 件)」、「あいさつ・声かけ (20 件)」、「イベント・テーマ型の交流 (19 件)」の順に意見が多くなっています。

交流・関係づくりの「きっかけ」や「機会」、「方法」に関する意見が見られるとともに、まず互いを知る、知ってもらうという意見、「あいさつ・声かけ」、イベントや趣味の集まり・場を通じたつながりづくりの意見があげられています。

また、前年度でもあげられていた新旧住民やマンション内など、地域のつながりや関係づくりに対する課題の意見も出ています。

小分類	意見	
交流・関係づくり (21 件)	・つながりを大事にする＜大森地域(B)＞ ・コミュニケーション＜大森地域(C)＞ ・友人・知人を紹介してもらう＜糀谷・羽田地域(A)＞ ・ひとり暮らしとの交流。会と民生とのつながり＜糀谷・羽田地域(B)＞ ・代表者の変更などきっかけにつながる！＜蒲田地域(A)＞ ・一対一のつながり＜蒲田地域(A)＞ ・知り合いの知り合い➡信頼につながる＜蒲田地域(A)＞ ・一度会うと次に会った時につながる＜蒲田地域(D)＞ ・出会いが大事＜蒲田地域(D)＞ ・ネットワークづくり。顔見知りの大切さから、大田区で区民活動をしている団体をつなぐ会の世話人をしている＜調布地域(B)＞	
あいさつ・声かけ (20 件)	・自分から挨拶＜大森地域(B)＞ ・知る人ばかりのアイサツはなるべくやめよう＜大森地域(B)＞ ・出かけたいと思えるような声かけ＜大森地域(B)＞ ・声かけをする＜大森地域(B)＞ ・まずは挨拶＜大森地域(C)＞ ・普段からの会話が大切＜大森地域(C)＞ ・あいさつがぶつかりの始まり＜大森地域(D)＞ ・声をかける、ごあいさつも含め＜糀谷・羽田地域(A)＞ ・声掛けの仕方、役目。「行かなきゃ♪」＜蒲田地域(C)＞ ・親があいさつしてると子もしてくれる＜調布地域(A)＞ ・認知症の方へ…こんにちは！＜調布地域(A)＞	
イベント・テーマ型の交流 (17 件)	・趣味などで縁を作ろう＜大森地域(B)＞ ・イベントへの参加率➡つながりをどうしていく？＜糀谷・羽田地域(B)＞ ・イベントの参加➡輪が広がる＜糀谷・羽田地域(B)＞ ・趣味を通して居場所を広げたい＜糀谷・羽田地域(B)＞ ・何でも 100 円バザー（毎月）つながり＜蒲田地域(C)＞ ・スマホ。楽しさ。孫の写真＜蒲田地域(C)＞ ・「等話」（本）松田道雄。地域課題を若い人もシニアも一緒に話しながら考える。問いかけのが大事！＜蒲田地域(C)＞ ・きっかけとなるようなイベントの考案＜蒲田地域(D)＞	
イベント・テーマ型の交流 (子ども・親) (1 件)	・親子のお出かけイベントを企画する＜調布地域(C)＞	
イベント・テーマ型の交流 (ひとり暮らし高齢男性) (1 件)	・みんなで食事会があるとよい＜蒲田地域(E)＞	
顔の見える関係づくり (15 件)	・相手を知る＜大森地域(C)＞ ・自分（たち）を知ってもらう＜大森地域(C)＞ ・相手を知る。自分たちを知ってもらう大森地域(C) ・お互いを知ること＜大森地域(C)＞ ・個人を知る＜糀谷・羽田地域(A)＞ ・ご近所と仲良くなる＜糀谷・羽田地域(A)＞ ・井戸端会議をする。参加する＜糀谷・羽田地域(A)＞ ・まず、団体や活動を知ってもらう。どうしたらいいか（顔見知りになるためには？）＜蒲田地域(A)＞	

小分類	意見
制度・仕組み・方法（15 件）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が大き過ぎる＜大森地域(A)＞ ・継続する！＜大森地域(C)＞ ・つながり方＜蒲田地域(C)＞ ・聞きづらい、高齢者同士。遠い人だから話せる＜蒲田地域(C)＞ ・ハコやリーダーの見つけ方＜蒲田地域(D)＞ ・社協・行政の仲介＜蒲田地域(D)＞ ・社協・行政が生活の身近なところとつながる＜蒲田地域(D)＞ ・人と人が出会う機会＜蒲田地域(D)＞
地域のつながり（11 件）	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい場から顔見知りに（麻雀、コーラス）⇒課題の吸い上げ＜調布地域(A)＞ ・安全なつながりをつくれる教育＜調布地域(C)＞ ・人があつまるところにつなぐ人（しかけ）がある＜調布地域(C)＞ ・つながり・あいさつのゆるいルール場づくり（←いつも同じ顔ぶれ・・・）＜調布地域(C)＞ ・オンライン利用＜調布地域(D)＞ ・ペットネットワーク＜調布地域(D)＞ ・知らない人の前で話す機会を!!日本人特有の恥ずかしがり屋さんの部分をふっしょく＜調布地域(D)＞
世代間交流（9 件）	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションに住んでいると、外のこと、地域のことがわかりにくい＜大森地域(D)＞ ・新旧住民とのつながり＜糀谷・羽田地域(B)＞ ・課題：集合住宅＜糀谷・羽田地域(B)＞ ・近所のつながりが無い。近くの場所で話し合いができるといいと思います。いつでも行ける場所があるといいと思います。＜糀谷・羽田地域(B)＞ ・土着の住民が少なくなってきた。マンションの人たちとのふれあいを深めたい。＜糀谷・羽田地域(B)＞
情報の発信・共有（5 件）	<ul style="list-style-type: none"> ・転入者とのつながり＜糀谷・羽田地域(B)＞ ・人とのつながり。地域でマッチングできるか＜糀谷・羽田地域(B)＞ ・知り合えばうるさくない（マンションの上と下、ご近所）＜蒲田地域(C)＞ ・地域で活動してる人はたくさんいるけどヨコのつながりが無い！外から見えづらい＜調布地域(A)＞ ・マンションと自治会（遠い？干渉してほしくない？）＜調布地域(B)＞ ・ご近所カフェで知り合いづくり＜調布地域(C)＞
意識・考え（3 件）	<ul style="list-style-type: none"> ・町会を中心に若い人ともつながりを作る＜大森地域(B)＞ ・自然に多世代で交流できる＜蒲田地域(B)＞ ・次世代交流。昔遊び。高齢者。中学生に教わる＜蒲田地域(C)＞ ・区施設。多世代交流。シニアステーション＜蒲田地域(C)＞ ・小さな関わりを続ける多世代交流＜蒲田地域(D)＞
特徴・機能（3 件）	<ul style="list-style-type: none"> ・つながりづくり。情報共有＜大森地域(B)＞ ・つながりを持ちたいところの連絡先を知る（区報など）＜大森地域(B)＞ ・イベントの情報（協力してほしいこと）わかりやすいと良い＜蒲田地域(A)＞
連携・協働（2 件）	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いのイベントに行けるような情報が上手に入る＜蒲田地域(A)＞ ・ある程度の情報共有ができて初めて“つながり”。自治会で HP, FB, インスタグラム, 自治会だより 1 枚／月 1 回＜調布地域(B)＞
活動・参加（1 件）	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ視線で＜大森地域(B)＞ ・人と会話しないと自分事にならない＜調布地域(B)＞
自治会・町会（1 件）	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でもできる＜蒲田地域(B)＞
男性の交流・活動（1 件）	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな居場所との交流＜大森地域(B)＞ ・色々な団体と様々な形でつながった＜糀谷・羽田地域(B)＞
	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと町会で集まってできる趣味のサークルなどができたらいいと感じています＜蒲田地域(A)＞
	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りやイベントで町内会の認知度を高める＜蒲田地域(A)＞
	<ul style="list-style-type: none"> ・男性への声かけ。“あなたの席用意してますよ！”＜調布地域(A)＞

（２）活動・参加（111 件）

＜活動・参加＞の内訳をみると、10 の項目が該当し「活動・参加（27 件）」、「イベント・テーマ型の交流（19 件）」、「制度・仕組み・方法（17 件）」の順に意見が多くなっています。

「イベント・テーマ型の交流」、「自治会・町会（13 件）」では、自治会・町会や地域の行事に関する意見があげられていますが、同時に自治会・町会への加入や活動のハードルに関しての課題の意見もあげられています。

「制度・仕組み・方法」では、特技の活用や参加者から支援者への仕組み、また活動を継続していくための仕掛けなどについて意見があげられています。

2024 年度の住民懇談会では、＜拠点・居場所＞の視点で、男性の居場所づくりの意見が出ていましたが、2025 年度の住民懇談会では、＜活動・参加＞の視点で「男性の交流・活動（9 件）」として、活動やイベントへの男性の参加が少ないことについての意見が多く見られました。

小分類	意見	
活動・参加（27 件）	<div><div><div>・ごみ集めを大森駅前毎週月曜日 9：30～11：00 にやっている＜大森地域(A)></div><div>・高齢者のおしゃべり会を毎月第 2 水曜日の 13：00～15：00 にやっている＜大森地域(A)></div><div>・防災訓練・ごみ拾いに出る人が少ない＜大森地域(B)></div><div>・知らないことでも楽しく参加できるようにする＜大森地域(B)></div><div>・包括の体操教室に行く！！健康になります＜大森地域(B)></div><div>・どんどん歩く＜大森地域(B)></div><div>・出来ることを探してみよう＜大森地域(B)></div><div>・外に出る糍谷・羽田地域(A)</div><div>・自分たちの団体でできること（強み）、自分たちの団体でできないこと（弱み）＜蒲田地域(A)></div><div>・社協のボランティアや児童館のお手伝いなどが好き。無理なく続けられることが大切だと思います＜蒲田地域(A)></div><div>・好きなことを無理なく続ける＜蒲田地域(A)></div><div>・蒲田でボランティア＜蒲田地域(B)></div><div>・ボランティアをしてつながる＜蒲田地域(B)></div><div>・私自身、盆踊りを覚えて「盆オドラー」になったことで仲間増えた。3 年目の今年はお手本として踊る側に＜蒲田地域(B)></div></div><div><div>・健康づくりのダンスなど。萩中にて＜蒲田地域(B)></div><div>・活動のきっかけ、コロナ。つながりのきっかけ、コロナ＜蒲田地域(C)></div><div>・一緒に何かをやる！＜蒲田地域(D)></div><div>・つながりが好きなことを活かせる場にもなっている＜蒲田地域(D)></div><div>・スポットではなく継続した＜調布地域(A)></div><div>・花壇整備など美化活動をして参加しやすく＜調布地域(B)></div><div>・今日話していること知らなかったことたくさん、一緒にやれること＜調布地域(B)></div><div>・月に 1 度お年寄りと歌声の会を行っている（8 年ほど）、体調によっては包括と連絡している＜調布地域(C)></div><div>・特技等で協力をする＜調布地域(C)></div><div>・音楽をエネルギーにしている（バンド活動など）＜調布地域(C)></div><div>・行きたい会に行く。休みたい日は休む。＜調布地域(C)></div><div>・早朝散歩でよその家や花をかんさつして楽しむ＜調布地域(C)></div><div>・その他：新しい事を提案する＜調布地域(C)></div></div></div>	
イベント・テーマ型の交流（18 件）	<div><div><div>・行事・イベントへの参加を広く進めること＜大森地域(B)></div><div>・町会などの行事に参加しよう（お祭り・イベント）＜大森地域(B)></div><div>・町会主催の防災訓練やごみ拾いに参加しよう＜大森地域(B)></div><div>・共通の趣味＜大森地域(C)></div><div>・高齢者対象のイベントはどんなものがあるか？＜大森地域(D)></div><div>・（活動継承のため）盆踊りは負担大のためやめる！こども祭り、敬老の日イベントはやってる＜大森地域(D)></div><div>・マンション内でこぶしの会食会。参加者が増え、彼女達でつるんで楽しそう！＜糍谷・羽田地域(A)></div><div>・地域のイベントに参加する＜糍谷・羽田地域(A)></div></div><div><div>・食事を通してつながる＜糍谷・羽田地域(A)></div><div>・共通のミッションがあると（お祭りなど）つながりが深まる＜蒲田地域(A)></div><div>・町会にイベント部誕生！若い人が！？などあるかな？なんとか応援したい＜蒲田地域(A)></div><div>・誰もが知っているテーマ＜蒲田地域(B)></div><div>・“ともに”のために〇〇テーマのグループ実践！＜調布地域(A)></div><div>・町会、親子縁日〇、防災訓練×。来ない…。＜調布地域(B)></div><div>・機恵子寮を中心として進める地域活動の企画をする＜調布地域(C)></div><div>・話題をきめてイベント（祭り）企画＜調布地域(D)></div><div>・お祭りの復活＜調布地域(D)></div><div>・話し合いから共同でできる活動に＜調布地域(D)></div></div></div>	
イベント・テーマ型の交流（ひとり暮らし高齢男性）（1 件）	<div><div><div>・好きなことをきいてイベントを行ってはどうか＜蒲田地域(E)></div></div></div>	
制度・仕組み・方法（17 件）	<div><div><div>・参加者をお客さんにしない＜大森地域(A)></div><div>・近所の目が気になって行けない➡皆呼んでしまう➡さりげなく参加できる＜大森地域(A)></div><div>・行くきっかけを工夫する＜大森地域(B)></div><div>・まわりを巻き込む＜大森地域(B)></div><div>・自分でやりたいことを選び、自分でカレンダーをうめる＜大森地域(B)></div><div>・得意なことを教えあう＜糍谷・羽田地域(A)></div><div>・得意なことを活かし、子どもや地域の方に伝える＜糍谷・羽田地域(A)></div><div>・働いているので参加できるものに制約がある。工夫できたら＜蒲田地域(B)></div><div>・活動のモチベーションづくり＜調布地域(A)></div></div><div><div>・総合事業の推進。SC 生活支援コーディネーターは？協議体がない、構成する。（大田区の進め方にギモン）＜調布地域(A)></div><div>・ボランティア活動で続くのか。有償ボランティア、はげまし合いの会など＜調布地域(A)></div><div>・つながるためのワンクッション＜調布地域(A)></div><div>・支援“される人”が、“する”ようなくみができないか＜調布地域(A)></div><div>・移動手段があれば参加できる。＜調布地域(A)></div><div>・祭礼会の弱体化←自治体 Backup＜調布地域(D)></div><div>・自治会のボランティアネットワーク構築＜調布地域(D)></div><div>・社会参加の入り口づくり＜調布地域(D)></div></div></div>	
制度・仕組み・方法（ひとり暮らし高齢男性）（1 件）	<div><div><div>・来ない人がイベントにどうすれば参加するか＜蒲田地域(E)></div></div></div>	

小分類	意見	
自治会・町会（13 件）	・町会・長生会を活発にする。他の組織でもよい<大森地域(B)> ・マンションで自治会に入りづらい<大森地域(D)> ・こどもが大きくなったら町会行事などに参加しなくなり、町会とのつながりがうすくなった気がする<大森地域(D)> ・町会の加入率を上げるためには①L I N Eをつくる②新築の家、マンションへの勧誘<大森地域(D)> ・スモールステップで得意なことから参加してもらう（町会活動）<大森地域(D)> ・自治会に加入する<糀谷・羽田地域(A)>	
男性の交流・活動（9 件）	・女性の方が体操などへの参加率が高い。男性の参加を！！<大森地域(B)> ・コミュニティに入るきっかけ作り（特に男性）<大森地域(C)> ・男性にもっと多く参加してほしい<大森地域(C)> ・居場所やってます 男性の参加が少ない。何を求めているか？<糀谷・羽田地域(A)> ・男性の参加➡家族へのアプローチ。P T Aとタイアップ<糀谷・羽田地域(B)>	
男性の交流・活動 （ひとり暮らし高齢男性）（2 件）	・集合住宅でイベントを実施するが男性の参加者が少ない（一人暮らしの方が多い）<蒲田地域(E)>	
学び・研修（9 件）	・商店街の歴史を調べる<大森地域(B)> ・歴史や郷土のことを学ぶ講座を開く<大森地域(B)> ・講習会に参加しよう<大森地域(B)> ・興味を持つこと<大森地域(B)> ・「大田区民大学」に参加しよう。年 36 回あります<大森地域(B)>	
住民懇談会（4 件）	・3 年位続けると地域に浸透して参加者が増える（住民懇談会）<大森地域(A)> ・だいたい今日人が来ないのが問題なのは（住民懇談会）<大森地域(A)>	
人・属性（4 件）	・意外と大田区の人がない<大森地域(A)> ・逆にいつも同じ人しか来なくなっている<大森地域(A)>	
情報の発信・共有（3 件）	・自分が運営しているサークルのポスターを作って宣伝する<大森地域(B)> ・情報共有：イベントやこども食堂の開催日時<糀谷・羽田地域(B)>	
意識・考え（1 件）	・最初の一步が大切←楽しい思い、次へつながる<調布地域(D)>	
特徴・機能（1 件）	・誰でも参加しやすい活動。誰でもどうぞ、な雰囲気大切。<調布地域(B)>	
連携・協働（1 件）	・つながりをネットワーク（区民活動団体、NPO 活動団体連絡会）<調布地域(A)>	

(3) 拠点・居場所 (108 件)

＜拠点・居場所＞の内訳をみると、11 の項目が該当し「特徴・機能 (35 件)」、「拠点・居場所 (17 件)」、「施設・場所の活用 (16 件)」の順に意見が多くなっています。

これまでの住民懇談会でも意見が出されていましたが、「居場所を作りたくても場所がない」など、依然として拠点・居場所の場の確保の課題があげられています。既存の「施設・場所の活用」では、自治会・町会の会館の活用に関する意見が多くあげられています。

拠点・居場所に求める「特徴・機能」として、誰でも、いつでも、気軽さといったことや安心（心の居場所など）できるような場所が求められています。また、「制度・仕組み・方法 (15 件)」では、ボールの使用ができるよう改善が必要といった意見も出ています。

小分類	意見	
特徴・機能 (35 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・本音の言える否定されない場所＜大森地域(A)＞ ・「気持ち」の居場所＜大森地域(B)＞ ・誰でも参加できる場所が必要＜大森地域(B)＞ ・プレッシャーを感じない場所が必要＜大森地域(B)＞ ・無理な話題作りを強要しない＜大森地域(B)＞ ・ふらっと行ける居場所が必要＜大森地域(B)＞ ・何もしなくていい場所が必要＜大森地域(B)＞ ・心理的安全性が必要＜大森地域(B)＞ ・クールスポットのような気軽な場所が必要＜大森地域(B)＞ ・自分で選べる居場所＜大森地域(B)＞ ・楽しさ＜大森地域(C)＞ ・役割を得られる場所＜糀谷・羽田地域(A)＞ ・達成感を得られる場所＜糀谷・羽田地域(A)＞ ・誰もがいつでも＜糀谷・羽田地域(B)＞ ・ひとりでも過ごせるスペース＜糀谷・羽田地域(B)＞ ・＜実質的な心の居場所＞高齢者ソフトボールチーム。もう 2 人目の利用者。がっくりにても居場所として機能＜蒲田地域(A)＞ ・仲間と動いた経験＝心の居場所に＜蒲田地域(A)＞ ・誰でもがいつでも立ち寄れて、色々な話をしたり、ぐちを言ったりできる場所＜蒲田地域(B)＞ 	
拠点・居場所 (17 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・何でもない場所が必要＜蒲田地域(C)＞ ・ただ行く場＜蒲田地域(C)＞ ・目的をしぼり過ぎ＜蒲田地域(C)＞ ・自由にやりたい＜蒲田地域(C)＞ ・ゆるやかに繋がれる場＜蒲田地域(D)＞ ・何もしなくてもいられる居場所＜蒲田地域(D)＞ ・オープンな目的のない場所＜蒲田地域(D)＞ ・みんなで一緒に楽しめる＜蒲田地域(D)＞ ・子どもから高齢者まで気軽に立ち寄れる場所＜蒲田地域(D)＞ ・何もしなくてよい。ふらっと寄れる居場所があるとよい＜蒲田地域(E)＞ ・ひとりでも来て孤独じゃない＜調布地域(A)＞ ・新聞各社が読める＜調布地域(A)＞ ・どんな居場所がある？求められている？＜調布地域(B)＞ ・一定数ネットの中に居場所を作っている人がいる。＜調布地域(B)＞ ・場所は実はたくさんある。(ex) シニアステーション。お局いない、教室化しない、新規が来やすい。＜調布地域(B)＞ ・ペット同伴で入れる場所＜調布地域(D)＞ ・交流の場（低価格か無償）＜調布地域(D)＞ 	
施設・場所の活用 (16 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・そのへん＜大森地域(A)＞ ・居場所を作りたくても場所がない＜大森地域(A)＞ ・シャッター通りになっていることをどうにかしたい＜大森地域(B)＞ ・場所の確保が難しい＝集まらない＜大森地域(B)＞ ・つどえるところ（何をしなくても居てもいいという場所）が必要＜大森地域(B)＞ ・自分で居場所を見つける＜大森地域(B)＞ ・居場所が欲しいとまずは思ってもらう。気づいてもらう＜大森地域(C)＞ ・レコード館（趣味を活かす）居場所づくり＜蒲田地域(A)＞ ・つながれる場が少ない＜蒲田地域(C)＞ ・集まれる場がある＜蒲田地域(D)＞ 	
制度・仕組み・方法 (15 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・町会会館の活用➡設備の問題＜糀谷・羽田地域(B)＞ ・商店街として場の提供。駅前広場の活用＜蒲田地域(A)＞ ・町会の会館 うまく機能させたい（既存のしくみを）＜蒲田地域(B)＞ ・徳持会館で月 1 回居場所づくり＜蒲田地域(B)＞ ・区の施設が新しくなって使用料が上がって利用しづらくなっている。自治会・町会の会館の活用がポイント＜蒲田地域(B)＞ ・町会の会費徴収にもつながる（会館を使うと）＜蒲田地域(B)＞ ・神社の社務所活用＜蒲田地域(B)＞ ・空いた場所を活用＜蒲田地域(C)＞ 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェで集まれる＜蒲田地域(D)＞ ・常設型の居場所。いつでも行ける！＜蒲田地域(D)＞ ・居場所。できれば行政主導で家を提供を（徳持会館）＜調布地域(A)＞ ・会場の共有 出張所利用制限をゆるく＜調布地域(A)＞ ・いこいの家があるが、十分活用されていない？不便な場所ではダメ！＜調布地域(B)＞ ・行政の主導で場所（施設）を各地域に設置＜調布地域(B)＞ ・施設空間の地域への開放＜調布地域(C)＞ ・秘匿性が高い施設ですがひろばができるかも…＜調布地域(D)＞ 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流に必要なこと。社協等（行政等）の協力＜蒲田地域(D)＞ ・だんだんさんの宣言…地域活動の支え方って？（社協／行政はどうフォローすべきか？）＜調布地域(A)＞ ・みんなのイノベーションの推進。だんだん近藤といっしょに！＜調布地域(A)＞ ・ファミレス等に社協職員出張!!?＜調布地域(C)＞ ・お金があれば色々あるけど、福祉ってなるとなぜか無料になる…＜調布地域(C)＞ 	

小分類	意見	
	・自由に遊べる場がない＜蒲田地域(C)＞ ・居場所のつくり方、課題。専門職はバックアップ。協力者があれば（チラシ配りなど）その情報があるとよい＜蒲田地域(D)＞	・Ex 親の介護、子育て、DV など具体的課題で話し合う＜場調布地域(D)＞ ・養護者支援話し合う集まり、加害者ケアが足りない＜調布地域(D)＞
情報の発信・共有（6 件）	・（居場所について）公的なツールでもっと区民の人に知ってもらえるしくみがあると良い＜大森地域(A)＞ ・気楽に集まれることを P R しましょう＜大森地域(B)＞ ・いこいの家の情報＜糀谷・羽田地域(B)＞	・包括でシニアの居場所マップ作っている＜調布地域(B)＞ ・自分がアンテナを貼って、居場所を見つける！居場所も、情報発信をする！＜調布地域(B)＞ ・カフェひなたぼっこ“紹介”＜調布地域(D)＞
集いの場づくり（6 件）	・みんなが集まれる場所をつくる＜大森地域(B)＞ ・（施設の外の）集える場所＜糀谷・羽田地域(A)＞ ・コミュニティの場づくり＜蒲田地域(B)＞	・歩いていけるとところに会場つくりたい＜調布地域(A)＞ ・ベンチを置く＜調布地域(A)＞ ・寄付してベンチを置く＜調布地域(A)＞
連携・協働（4 件）	・企業の協力 居場所の提供＜蒲田地域(C)＞ ・民間の協力 CSR＜蒲田地域(C)＞ ・社協が協力＜蒲田地域(C)＞	・居場所づくり、民協と社協、包括、シニアセンターみなさんの協力のもとカフェひなたぼっこ（月 1 回開催）ひとり住いの人や近くで行けるところ、ゆっくり話ができ、地域の人との交流ができる＜調布地域(A)＞
活動・参加（3 件）	・ひなたぼっこにはボランティアの人が何人かいて、一緒にコーヒーを運んだりしてくれている。とても皆さん楽しく活動してくださる。＜調布地域(A)＞	・健康年齢を上げる。シニアの人達ができる健康づくり＜調布地域(B)＞ ・カフェひなたぼっこ意見 Open＜調布地域(D)＞
意識・考え（2 件）	・行きたい居場所は人によってそれぞれ違う。＜調布地域(B)＞	・新しい人を受け入れる雰囲気・受け入れるチカラ＜調布地域(C)＞
男性の交流・活動（2 件）	・男性が参加できる居場所が必要＜大森地域(B)＞	・男性の居場所。課題＜蒲田地域(D)＞
子ども食堂の活動・活用（1 件）	・子ども食堂の発展形を考える（食べる＋話し合う）＜調布地域(C)＞	
自治会・町会（1 件）	・町会・自治会が無くなったらどうなる？＜調布地域(B)＞	

(4) 相談・支援 (79 件)

<相談・支援>の内訳をみると、9つの項目が該当し「見守り・支えあい (18 件)」、「意識・考え (15 件)」、「相談・支援の取組 (13 件)」の順に意見が多くなっています。

「見守り・支えあい」や「意識・考え」では、「よけいなおせっかいはどこまでしていい?」、「行動に移すのにひるんでします」など助ける側の悩みのほか、「SOSを言える大切さ」、「公の世話にはなりたくない」など助けを受ける側の意識についての意見も出ています。

また、「相談・支援の取組」、「多様な人・世帯への支援」では、孤立している・困っている人・世帯がどこにいるのかといった意見が見られ、支援を必要とする人・世帯の把握の課題があります。

小分類	意見	
見守り・支えあい (16 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・共助と公助<萩谷・羽田地域(B)> ・世代間の協力=生きがい<萩谷・羽田地域(B)> ・地域でのおだやかな見守りを広げたい<萩谷・羽田地域(B)> ・一人が一人を見守る➡できる範囲の中でつながる<蒲田地域(A)> ・おせっかい(人のために何かをしたい)<蒲田地域(A)> ・高齢なので助けてもらって支えあいたい<蒲田地域(B)> ・できることをお互いに補助しあう<蒲田地域(B)> ・助けあい、居場所<蒲田地域(C)> ・おせっかい<蒲田地域(D)> 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係(いつもあいさつしてる)と助けに行ける<調布地域(A)> ・“心あるおせっかい”が実現できている?<調布地域(A)> ・よけいなおせっかいはどこまでしていい?<調布地域(A)> ・急には訪問しない。まずメッセージカード。熱中症の注意よびかけ<調布地域(A)> ・ケアマネジャーという専門職を活かして、地域の見守りネットワークを手伝っている。<調布地域(B)> ・高齢者の1人歩きに声かけを<調布地域(C)> ・まち歩き+パトロール<調布地域(D)>
見守り・支えあい (ひとり暮らし高齢男性) (2 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・民生でひとり暮らし高齢者の見守りをしている<蒲田地域(E)> 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りに行くところ<蒲田地域(E)>
意識・考え (12 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・「支えてあげる」ではない<大森地域(A)> ・SOSを言える大切さ<大森地域(C)> ・自分ごととして考えられるように具体的にターゲットを絞り込む<大森地域(D)> ・支え愛<蒲田地域(A)> ・“ずうずうしいくらいが良い!!”<調布地域(A)> ・訴えられたらいやだ…(緊急のとき)<調布地域(A)> 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動に移すのにひるんでします<調布地域(A)> ・なぜひるんじゃうのか<調布地域(A)> ・ひとりが好きな人もいる<調布地域(A)> ・なかなか人を頼る気になるフンイキがないナ。“受援力”<調布地域(A)> ・どう助けるか?だけでなく、“助けて!”といえるように<調布地域(A)> ・年代によってささえあいの概念がちがう<調布地域(C)>
意識・考え (ひとり暮らし高齢男性) (3 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・男性の方は大丈夫って言われる<蒲田地域(E)> ・公の世話にはなりたくない<蒲田地域(E)> 	<ul style="list-style-type: none"> ・極限まで男は我慢する。亡くなる方は男性が多い。人に頼れないと思っている<蒲田地域(E)>
相談・支援の取組 (13 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんな人がいるので、全部の問題を解決しようとなると大変(流すことも大切) ➡コミュニティとの距離感<大森地域(D)> ・困りごとに対して、すぐ解決策を伝えようと責められているように感じる人がいる ➡すぐ解決策を言わない!<大森地域(D)> ・こまった人。もしかして自分が・・・<大森地域(D)> ・孤立した人。世帯を見つけられない<萩谷・羽田地域(A)> ・孤立した人。世帯とつながれない<萩谷・羽田地域(A)> ・気づけてアウトリーチの場にもなる<蒲田地域(B)> 	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている人がどこにいるのかわからない<蒲田地域(D)> ・困っている人が何に困っているかわからない<蒲田地域(D)> ・こりつしている高齢者は?もっと地福C0アウトリーチ<調布地域(A)> ・支援が必要な人がみえない<調布地域(A)> ・人の悩みを少しでも軽くする<調布地域(B)> ・包括だけで訪問しても入れてくれないが、民生委と一緒にだて入れてくれる<調布地域(B)> ・相手の話を聞くようにしている(傾聴)<調布地域(C)>
多様な人・世帯への支援 (7 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急での食料支援(生活保護の方等へ)<萩谷・羽田地域(B)> ・本当に困っている人の食料等支援について<萩谷・羽田地域(B)> ・町会からも食料の提供あり(フードパントリー団体へ)<萩谷・羽田地域(B)> ・コロナで人が困っている場面を見る➡何とか力になりたい<萩谷・羽田地域(B)> 	<ul style="list-style-type: none"> ・フードパントリー。定期的なつながり<蒲田地域(C)> ・孤立を防ぐ<蒲田地域(D)> ・独居男性、情報が無い<調布地域(D)>
多様な人・世帯への支援 (子ども・親) (2 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の協力(自分がヤングケアラーだと気づいていない人がいる)<調布地域(A)> ・ヤングケアラー(先生とSCにGAP、SCがキーマン?)<調布地域(A)> 	
多様な人・世帯への支援 (ひとり暮らし高齢男性) (1 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢の男性の孤立が課題になっている<蒲田地域(E)> 	
制度・仕組み・方法 (9 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・元気高齢者をもっと巻き込んでいけるようなしくみ<大森地域(A)> ・支援が必要な人に届くしくみづくり<萩谷・羽田地域(B)> ・支え「あい」になるにはどうしたらいいの??依存?になってしまいかねない悩み<蒲田地域(A)> ・“支えられたら支えます!”という仕組みづくり<調布地域(A)> ・包括って?<調布地域(B)> 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きい輪から小さい輪をつなげる支えあいも必要<調布地域(C)> ・集まるのではなく、小グループで個をささえる<調布地域(C)> ・有識者も交えて、専門に分けてシェア。悩みをシェアできる場、プラス思考。オンラインも!<調布地域(D)> ・個人から家庭へ介入(Backyard)<調布地域(D)>
人・属性 (3 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らしの増加<蒲田地域(C)> ・困っている人減らない。物価高騰<蒲田地域(C)> 	<ul style="list-style-type: none"> ・構わないでほしい人、放っておいてほしい人多い<蒲田地域(D)>

小分類	意見	
人・属性 （ひとり暮らし高齢男性）（2 件）	・人に興味がない。放っておいてほしい。気にかけてほしい<蒲田地域(E)>	・人に弱さを見せたくない。SOS を出してくれなくて困っている<蒲田地域(E)>
防災・防犯（3 件）	・災害時のことは自分ごとにしやすい<大森地域(D)> ・防災のしくみづくり<調布地域(D)>	・防災のしくみ作りでペットのいる家族、高齢者家族が「らしく生きる」ことができる <調布地域(D)>
情報の発信・共有（2 件）	・CCC（CleanupCoffeeClub）など小さな活動を PR！<調布地域(A)>	・ボランティア研修で各団体の PR を。社協のボランティア C の役割<調布地域(A)>
交流・関係づくり（1 件）	・民生児童委員とのつながりを持つ<大森地域(B)>	
連携・協働（1 件）	・学校と民生委員と地域福祉コーディネーターの連携<蒲田地域(A)>	
特徴・機能（1 件）	・たすけてが言える環境<蒲田地域(B)>	

(5) 子ども・子育て (57 件)

<子ども・子育て>の内訳をみると、13 の項目が該当し「拠点・居場所（11 件）」、「子ども食堂の活動・活用（10 件）」、「意識・考え（7 件）」の順に意見が多くなっています。

「拠点・居場所」、「特徴・機能（4 件）」では、中高生など子どもが過ごせたり、活動ができたりする場所がないことへの意見が出されています。

また、「子ども食堂の活動・活用」、「多様な人・世帯への支援（5 件）」の意見からは、何かしらの課題を抱えているお子さんがいる状況や「参加してほしい人に参加してもらうのが難しい」、「こども食堂以外でも本当に来てほしい人に来てもらうのってムツカシイナ」の意見があるように支援の場へのつなぎ方の課題が見られます。

小分類	意見	
拠点・居場所（1 件）	・場所がない。小学校が貸してくれない<蒲田地域(C)>	
拠点・居場所 （子ども・親）（10 件）	<ul style="list-style-type: none"> ・学童が足りない。児童館、小学校内につくる<蒲田地域(C)> ・子どもらしい生活。人権、生き活きた場の提供<蒲田地域(C)> ・子どもの食事。提供場所増、子どもの自由な時間<蒲田地域(C)> ・保育園、児童館<蒲田地域(D)> ・中高生の居場所が少ない。居場所づくりの勉強会をしたり、支援をしたりする会の運営をしている。<調布地域(B)> 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生ひろば、調布にない。カムカム蒲田図書館<調布地域(B)> ・子どもたち（高校生）の働く場所の確保<調布地域(C)> ・子どもが活躍できる場<調布地域(D)> ・母子家庭世帯が地域で活躍できる場<調布地域(D)> ・母や子が活躍できる場所がほしい<調布地域(D)>
子ども食堂の活動・活用（9 件）	<ul style="list-style-type: none"> ・こども食堂についての理解➡主旨<荏谷・羽田地域(B)> ・企業➡居場所。こども食堂<蒲田地域(C)> ・こども食堂の定期開催。ボランティアの方の確保<蒲田地域(D)> ・こども食堂をもっと宣伝してもらいたい<蒲田地域(E)> ・こども食堂。母のボランティア 5 名に対し男性ボランティア 1 名で孤立しているが連携することができた<蒲田地域(E)> 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険から遠ざけるばかりでは発展しない。こども食堂で調理を体験してみるなど<蒲田地域(E)> ・こども食堂以外でも本当に来てほしい人に来てもらうのってムツカシイナ<調布地域(A)> ・大人が企業が「こども食堂」に丸投げしているのでは<調布地域(B)> ・こども食堂➡みんなの食堂<調布地域(B)>
子ども食堂の活動・活用 （外国につながるのある方）（1 件）	・こども食堂ではかき氷のシロップを飲もうとしたりしてしまう。文化の違いを埋めるのが大変<蒲田地域(E)>	
意識・考え（子ども・親）（7 件）	<ul style="list-style-type: none"> ・強さを作るには<蒲田地域(C)> ・人とのつき合い方、距離感、けんか<蒲田地域(C)> ・親が忙しい<蒲田地域(C)> ・子どもの遊びの満足、満たされているか<蒲田地域(C)> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもはどう思っているか<蒲田地域(C)> ・子どもの学び、遊びを通して人間関係を学ぶ<蒲田地域(C)> ・怒らない大人、怒られて気づく、火×、万引×<蒲田地域(C)>
その他（子ども・親）（6 件）	<ul style="list-style-type: none"> ・認可保育園、数増。運動会ができない<蒲田地域(C)> ・子ども、みんな習い事している<蒲田地域(C)> ・暑さのためプール中止。遊びがないからゲーム<蒲田地域(C)> 	<ul style="list-style-type: none"> ・親が待てない。くつひもを結んであげちゃう<蒲田地域(C)> ・子どもの将来<蒲田地域(C)> ・親はいい親だと思ってもらいたい。親をけなす子はいない<蒲田地域(E)>
イベント・テーマ型の交流 （子ども・親）（5 件）	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものつながりのあるイベントに参加しよう<大森地域(B)> ・ごみ拾いイベントで「お菓子あるよ～」と子どもを誘う<大森地域(B)> ・消防署の人が来ると子供世帯集まりやすい（消防車など）<大森地域(D)> 	<ul style="list-style-type: none"> ・（町会活動）まずは人が来てくれる。興味を持ってもらいたい➡防災訓練には子育て世帯が参加してくれる（母・子など）ターゲットを絞る<大森地域(D)> ・人材問題➡ライフスタイルも違う➡子どもを通してつながりづくりを<荏谷・羽田地域(B)>
多様な人・世帯への支援 （子ども・親）（5 件）	<ul style="list-style-type: none"> ・親の顔を 4 日間見ていない子がいた。朝食を食べていない<蒲田地域(E)> ・気になる子供がいる、家庭の状況を隠したがる<蒲田地域(E)> ・毎週金曜無料でマックで食事会をやっている。親子が 8 組来ている<蒲田地域(E)> 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加してほしい人に参加してもらうのが難しい<蒲田地域(E)> ・はじめての子育て、仕事と両立する親へのサポート<調布地域(A)>
特徴・機能（2 件）	・ピアノレッスン以外にも、学校や家族の話をきく時間を作っています<調布地域(B)>	・「お母さんに話さないで」という話をしている。学校・家以外の居場所。<調布地域(B)>
特徴・機能（子ども・親）（2 件）	・こどもも外で勉強したりお菓子食べたりできるところを探している<蒲田地域(B)>	・千代田区の児童館、バンドのできるスタジオ。祭りの手伝い…貸す。マンガしか無いだと中高生行くか？<調布地域(B)>
活動・参加（子ども・親）（3 件）	・子どもがわくわくすること。（案）子ども、知らない所へ行く（サードプレイス）<蒲田地域(C)>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、新しい挑戦が必要<蒲田地域(C)> ・子どもたちが地域の役に立つと実感できるボランティア活動を企画する<調布地域(C)>
交流・関係づくり（子ども・親） （2 件）	・子どもを通しての仲間づくり<大森地域(B)>	・子どものころからのコミュニケーション（原体験）をつみかさねる<調布地域(C)>
施設・場所の活用 （子ども・親）（1 件）	・小学校は場所を貸してくれる<蒲田地域(E)>	
情報の発信・共有（1 件）	・居場所について知られていない<蒲田地域(E)>	
人材・担い手・キーマン （子ども・親）（1 件）	・中学生のボランティア、中学生の親、喜んでついてきてくれる。地域の担い手につながりそう<蒲田地域(C)>	
連携・協働（1 件）	・複数団体が連携することの必要性を身に染みて感じた。コラボレーション<蒲田地域(E)>	

（６）共生・多様性（34 件）

＜共生・多様性＞の内訳をみると、7つの項目が該当し「共生・多様性（10 件）」、「人・属性（6 件）」、「活動・参加（5 件）」、「制度・仕組み・方法（5 件）」、「多様な人・世帯への支援（5 件）」の順に意見が多くなっています。

外国につながりある方や障害のある方に関する意見が多く出されています。

外国につながりある方については、言語や文化を背景とした課題や支援を行っている状況がある一方で、日本語での会話や地域のお祭りへの協力など、外国につながりある方との交流や参加ができているといった意見も見られます。

障害のある方については、地域でたまり場やフリースペースが開かれているほか、交番や近所に障害のある方がいることを伝えるといった意見が見られました。

小分類	意見	
共生・多様性（7 件）	・（障害のある方が作成した）作品展の開催の広報、もっと広めたい！！＜大森地域(D)> ・“心のあけぼの展” 福祉施設で 2 月頃実施予定。区報に掲載してます＜大森地域(D)> ・中国人の方が転居されて来て、どのように接したらいいのかわからない＜蒲田地域(A)> ・“文化の違い” への対応難しい＜蒲田地域(A)>	
共生・多様性 （外国につながりのある方）（2 件）	・言語の壁を越える方法を考えるのが重要＜蒲田地域(E)>	・外国につながりのある方は食べられないものを考えていけないと思っている＜蒲田地域(E)>
共生・多様性 （障害のある方）（1 件）	・おなかがすいているとけんかしてしまう＜蒲田地域(E)>	
人・属性 （外国につながりのある方）（6 件）	・外国につながりのある方が 20 世帯 40 人くらい、参加率は男性より多い＜蒲田地域(E)> ・子どもは言葉はわかるが両親はわからない＜蒲田地域(E)> ・外国人であることを明かしたくない、恥ずかしがっている人もいる＜蒲田地域(E)> ・家族の誰かが日本人であることが多い＜蒲田地域(E)>	・弁護士免許を取りたいネパールの方もいる＜蒲田地域(E)> ・飲食の仕事をしている方が多いので休みがバラバラでイベントの日を決めるのが大変＜蒲田地域(E)>
活動・参加 （障害のある方）（4 件）	・イベントは内容や日時にハードルがある＜蒲田地域(E)> ・プログラムを実施。食事をみんなで作る。レシピから考える、片付けまで。一番人気がある＜蒲田地域(E)>	・元調理人の方もいる。食材の切り方を伝えている＜蒲田地域(E)> ・話をするプログラムも人気＜蒲田地域(E)>
活動・参加 （外国につながりのある方）（1 件）	・盆踊りのやぐらを建てるのに 3 名の方が手伝ってくれた＜蒲田地域(E)>	
制度・仕組み・方法（1 件）	・バスに乗りたいがステップが高過ぎる＜糀谷・羽田地域(B)>	
制度・仕組み・方法 （外国につながりのある方）（3 件）	・日によってメニューを分けて手伝ってもらう仕組みづくりをしてもよいのでは＜蒲田地域(E)> ・公園に外国につながりのある方が集まる（5 か国）意味が通じないのが課題＜蒲田地域(E)>	・身振り手振りも気を付けている蒲田地域(E)
制度・仕組み・方法 （障害のある方）（1 件）	・近所の交番にも知ってもらっている＜蒲田地域(E)>	
多様な人・世帯への支援 （外国につながりのある方）（3 件）	・学校からのお知らせで読めない漢字がある。レガートおおたに連れて行った。なかなか最後まで勉強できない。家庭・仕事・お金＜蒲田地域(E)> ・外国につながりがある子ども達をまとめていけないかという話が出ている。チベットの方が多 い＜蒲田地域(E)>	・紙に書いて共有している。漢字にひらがなを振っている＜蒲田地域(E)>
多様な人・世帯への支援 （障害のある方）（2 件）	・障害のある方の相談に乗っているが、町会にも参加している＜蒲田地域(E)>	・近所の方に発信してきた。マンション内で助けてくれる関係性になっている＜蒲田地域(E)>
交流・関係づくり （障害のある方）（2 件）	・たまりばをやっている。学童と同じように使ってもらっている。高齢の方と交流している＜蒲田地域(E)>	・親の会でつながり、支えあいで心強い。情報共有をしている＜蒲田地域(E)>
拠点・居場所 （障害のある方）（1 件）	・フリースペースを提供。障害がある方に同じ方がいて安心する。火木金＜蒲田地域(E)>	

(7) 情報 (28 件)

＜情報＞の内訳をみると、5の項目が該当し「情報の発信・共有（20 件）」、「制度・仕組み・方法（3 件）」、「個人情報の問題（2 件）」の順に意見が多くなっています。
情報の発信や共有に関しては、SNSや電子回覧板といったインターネット上の仕組みを活用する意見があげられています。

小分類	意見	
情報の発信・共有（20 件）	・より多くの人に知ってもらって賛同者を増やす（シートの真ん中に貼付されていた付せん） ＜大森地域(A)> ・今日来ていない人には個別に伝える（シートの真ん中に貼付されていた付せん） ＜大森地域(A)> ・チラシの配り先新規開拓！！（なかなか置いてもらえない）＜大森地域(B)> ・広報手段：回覧・掲示板・区報・大田区 HP など＜大森地域(D)> ・アンテナを張る＜糀谷・羽田地域(A)> ・好きなことを共有する＜糀谷・羽田地域(A)> ・正しい情報の発信方法＜糀谷・羽田地域(B)> ・区からの情報の共有化＜糀谷・羽田地域(B)> ・SNSでの発信＜蒲田地域(A)>	
制度・仕組み・方法（3 件）	・QRだけだと申込にたどり着けない＜大森地域(B)> ・電子回覧板＜調布地域(D)>	
個人情報の問題（2 件）	・個人情報の壁をどう乗り越えるか＜蒲田地域(A)>	・個人情報保護が邪魔に感じる＜蒲田地域(E)>
自治会・町会（1 件）	・町会への広報＜糀谷・羽田地域(B)>	
防災・防犯（1 件）	・災害時のための情報共有を深める（在宅）避難のことなど＜大森地域(D)>	

(8) 意識・考え (27 件)

＜意識・考え＞の内訳は、「意識・考え（26 件）」、「制度・仕組み・方法（1 件）」となっています。
ここでの意見は、ほとんどが4つの小テーマの【自分らしく生きる】に関連した意見となっています。

小分類	意見	
意識・考え（24 件）	・自分を楽しみ、人と共にあゆむ＜大森地域(B)> ・自分の人生に対する考え方を見直す＜大森地域(B)> ・自分のことはできるだけ自分でやる＜大森地域(B)> ・休日にいつも通りに暮らす 健康のために・・・＜大森地域(B)> ・思いを引き継ぐことの大切さ＜大森地域(C)> ・自分の気持ちに正直に＜大森地域(C)> ・自分自身の強さも必要＜大森地域(C)> ・自分の弱さを出せる＜大森地域(C)> ・みんなが幸せになる＜大森地域(C)> ・自分らしく生きられない＜糀谷・羽田地域(A)> ・弱さを認めて強さを生かす＜蒲田地域(B)> ・健康に過ごす＜蒲田地域(B)>	
意識・考え （ひとり暮らし高齢男性）（2 件）	・女性は受け入れてもらえるが男性は拒否。プライドがある＜蒲田地域(E)>	・自覚と覚悟＜蒲田地域(B)> ・生きがい＜蒲田地域(C)> ・必要とされること＜蒲田地域(C)> ・組織よりも個人優先＜調布地域(A)> ・好奇心＜調布地域(B)> ・健康を大切にする。＜調布地域(B)> ・こころ＜調布地域(B)> ・視野を広げていくこと＜調布地域(B)> ・こだわりこだわらない＜調布地域(B)> ・自分らしくこだわることもこだわらないことも大事＜調布地域(B)> ・誰にでも頼めることでもない、生活をのぞかれることへの不安＜調布地域(C)> ・仕事はなるべくずっと続けていきたいなあ＜調布地域(C)>
制度・仕組み・方法（1 件）	・きっかけをつくることをすすめる方法を提案する＜大森地域(B)>	
	・頼られるとやる気を出す。あなたがいないとできない＜蒲田地域(E)>	

(9) 人材・担い手・キーマン (23 件)

<人材・担い手・キーマン>の内訳をみると、「人材・担い手・キーマン (16 件)」、「制度・仕組み・方法 (4 件)」、「男性の交流・活動 (1 件)」となっています。
人材・担い手不足の意見のほか、人材を確保するためにコーディネーターの増員や報酬、有償ボランティアといった仕組みについての意見が出されています。

小分類	意見
人材・担い手・キーマン (18 件)	<div>・町会活動で執行委員の高齢化で担い手不足に困っている。イベントに参加した方が委員として残ってもらえる方法が知りたい<大森地域(D)></div> <div>・働き手がいない<糀谷・羽田地域(A)></div> <div>・町会の役員の高齢化に伴い、若い役員に入ってもらいたい<糀谷・羽田地域(B)></div> <div>・支えたくても（お互い）忙しすぎる<蒲田地域(A)></div> <div>・ボランティアになってもらうためにはどのようなところへ働きかけたらいいか<蒲田地域(A)></div> <div>・見てくれる人いない<蒲田地域(C)></div> <div>・自治会によって差あり、担い手<蒲田地域(C)></div> <div>・協力者がほしい<蒲田地域(D)></div> <div>・人員確保（ボランティア）<蒲田地域(D)></div> <div>・支えられている人支え手になる<蒲田地域(D)></div> <div>・キーマンがちゃんと動けるか<調布地域(A)></div> <div>・スタート時のキーマン、情報共有が大事<調布地域(A)></div> <div>・一本づり。父→子→口コミ→若い人が増える。<調布地域(B)></div> <div>・なんでも中高年女性にたのまないでほしい<調布地域(C)></div> <div>・新しい担い手しくみづくり（属性にかかわらず）<調布地域(C)></div> <div>・つながりのきっかけは地域福祉コーディネーター<調布地域(D)></div> <div>・地域福祉コーディネーターを増やすべき<調布地域(D)></div> <div>・得意分野のコーディネーターを作る。おせっかいを増やす。<調布地域(D)></div>
制度・仕組み・方法 (4 件)	<div>・支えているけど支えてくれる人がいない（資金面・精神面）・・・沈む<大森地域(A)></div> <div>・担い手にも報酬必要か<蒲田地域(C)></div> <div>・社会的な役割<蒲田地域(C)></div> <div>・有償ボランティア@調布（居場所にもなる）しくみ作っているところ<調布地域(B)></div>
男性の交流・活動 (1 件)	<div>・ボランティアに男性を！←男性は仕事で時間が無い<調布地域(D)></div>

(10) その他 (6 件)

小分類	意見
人・属性 (4 件)	<div>・昔の家族、おじいちゃん、おばあちゃん<蒲田地域(C)></div> <div>・家族関係難しいなあ<調布地域(B)></div> <div>・100 家族いたら 100 通りの家族<調布地域(B)></div> <div>・夫と 2 人暮らし。自由時間の確保<調布地域(D)></div>
その他 (2 件)	<div>・一歩先へ進むとやばさ 5 倍<大森地域(D)></div> <div>・生きていることがスゴイ！<蒲田地域(A)></div>

2025年度 住民懇談会・OT Aふれあいフェスタ2025 参加者アンケート結果

1. アンケートについて

- ☆ 第7次大田区地域福祉活動計画の進捗評価等に活用することを目的として、イベント参加者に対して計画で掲げる「5年後の地域の姿」に対する現在の状況などをたずねました。

2. 住民懇談会の参加者アンケート

(1) 回答結果

- ☆ 2025年の住民懇談会は、7月末から8月初旬にかけて区内4地域で開催し、70人が参加しました。そのうち64人からアンケートの回答をいただきました。

	7月27日 大森地域	7月29日 糀谷・羽田地域	7月31日 蒲田地域	8月1日 調布地域	合計
回収数	11	9	23	21	64
参加者数	13	9	24	24	70

(2) 集計結果

① 参加者の性別・年代

- ☆ 参加者の性別は、男性が43.8%、女性が56.3%となっています。
- ☆ 参加者の年代は、「60代」が25.0%で最も多く、次いで「70代」が20.3%、「40代」「50代」が17.2%と続いています。

図1 参加者の性別＜全体＞

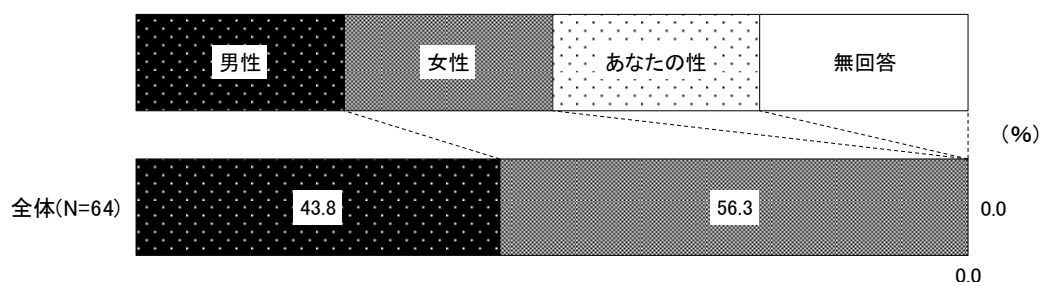
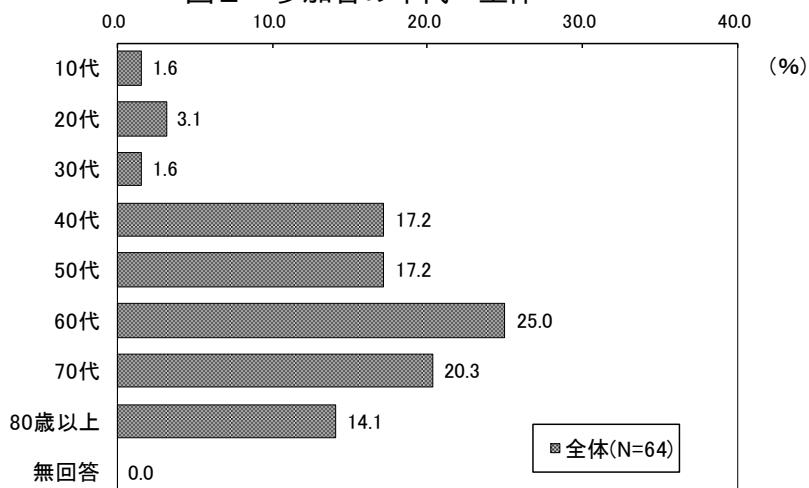


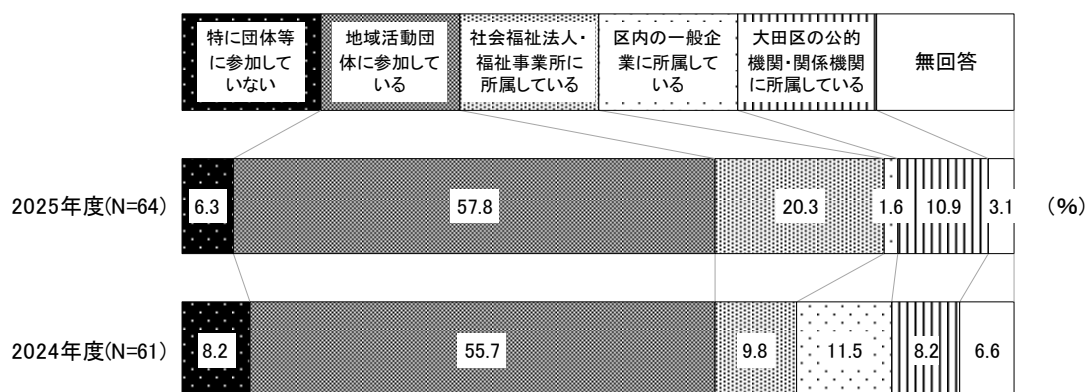
図2 参加者の年代＜全体＞



② 参加者の活動・所属の状況

- ✧ 参加者の活動・所属の状況をたずねたところ、「地域活動団体に参加している」が57.8%で最も多く、次いで「社会福祉法人・福祉事業所に所属している」が20.3%、「大田区の公的機関・関係機関に所属している」が10.9%となっています。
- ✧ 2024年度と比較すると、2024年度は「区内一般企業に所属している」割合が11.5%あり、企業の参加がみられたものの、2025年度は1.6%と減少し、代わりに「社会福祉法人・福祉事業所に所属している」の割合が増加しています。

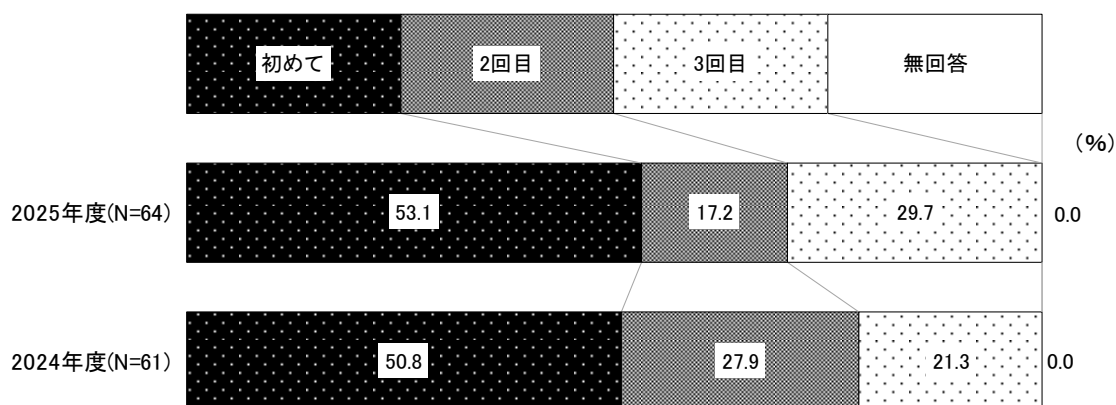
図3 参加者の活動・所属の状況<全体>



③ 住民懇談会への参加状況

- ✧ 参住民懇談会への参加状況をたずねたところ、「初めて」が53.1%、「2回目」が17.2%、「3回目」が29.7%となっています。
- ✧ 2024年度と比較すると、「2回目」が10.7ポイント減少した一方で、「3回目」8.4ポイントの増加しており、依然として初回参加の方が半数以上であるものの、継続して参加している方が増えていることがわかります。

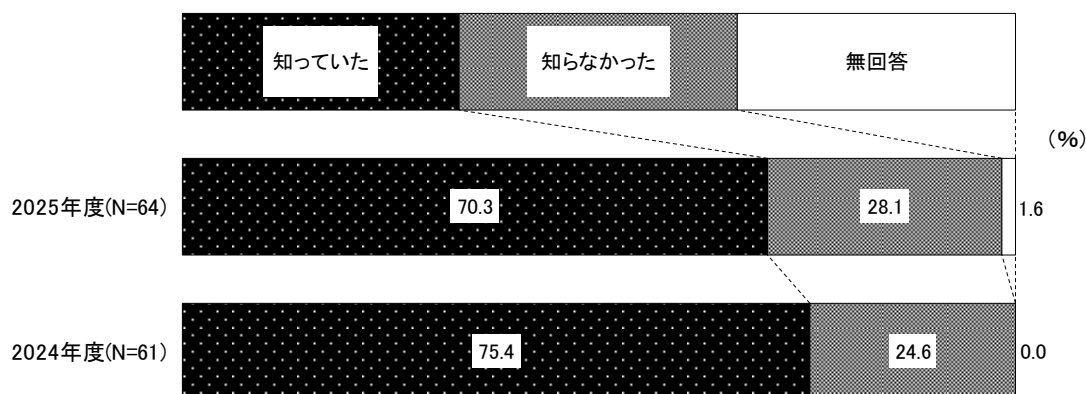
図4 住民懇談会への参加状況<全体>



④ 「第7次大田区地域福祉活動計画」の認知度

- ◇ 「第7次大田区地域福祉活動計画」の認知度をたずねたところ、「知っていた」が70.3%、「知らなかった」が28.1%となっています。
- ◇ 2024年度と比較すると、「知っていた」の割合が5.4ポイント減少しています。

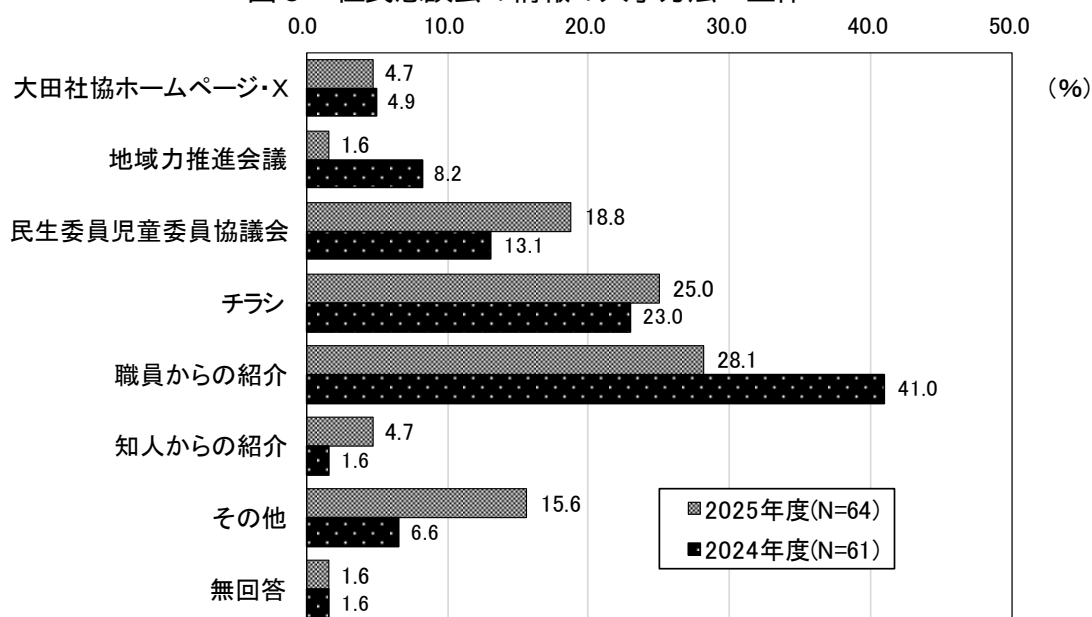
図5 「第7次大田区地域福祉活動計画」の認知度＜全体＞



⑤ 住民懇談会の情報の入手方法

- ◇ 住民懇談会の情報の入手方法をたずねたところ、「職員からの紹介」が28.1%で最も多く、次いで「チラシ」が25.0%、「民生委員児童委員協議会」が18.8%となっています。
- ◇ 2024年度と比較すると、上位3位の傾向は変わらないものの、「地域力推進会議」の割合が6.6ポイント減少している一方で、「その他」が9.0ポイント増加となっています。
- ◇ 「その他」の具体的な内容としては、「メール」、「社協さんメール」などの意見となっています。

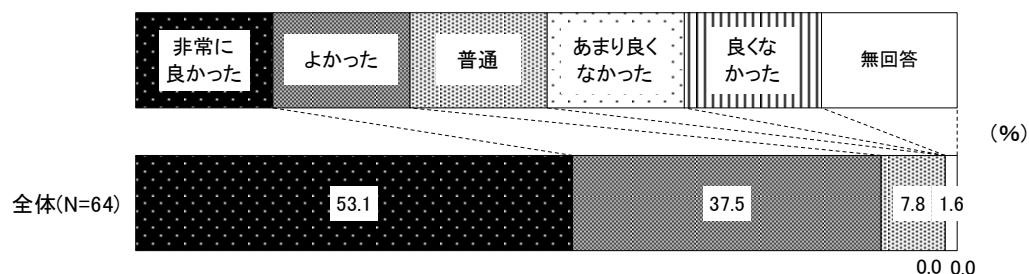
図6 住民懇談会の情報の入手方法＜全体＞



⑥ 住民懇談会の満足度

- ☆ 住民懇談会の満足度をたずねたところ、「非常に良かった」が53.1%で最も多く、次いで「よかった」が37.5%となっている。

図7 住民懇談会の満足度＜全体＞



⑦ 「5年後の地域の姿」の現状

- ☆ アンケートでは、第7次大田区地域福祉活動計画で掲げた「5年後の地域の姿」について5段階で現在の状況をたずねました。分析にあたっては、「1. できていない」と「2. ややできていない」を合計した＜現状できていない＞、「3. どちらともいえない」、「4. ややできている」と「5. できている」を合計した＜現状できている＞の3段階に整理しています。
- ☆ ＜現状できている＞の割合が＜現状できていない＞より高い項目は6項目あり、そのうち『(1)ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」をつくっている。』(43.8%)、『(3)地域の中で生きがいを持って、生活することができる。』(39.1%)、『(5)ひとりで悩まずに、相談することができる場所（人）がある（いる）ことを知っている。』(39.1%)、『(6)身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支えあっている。』(40.6%)の4項目は、＜現状できていない＞より20.0ポイント以上高くなっています。
- ☆ ＜現状できていない＞の割合が＜現状できている＞より高い項目は、『(2)地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。』(29.7%)と『(8)判断能力の低下などに関わらず、すべての人が地域の中で自分らしく生きている。』(31.3%)の2項目となっています。
- ☆ なお、『(2)地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。』(35.9%)と『(7)一人ひとりの生き方を理解しあっている。』(31.3%)は、「どちらともいえない」の割合が最も高くなっています。

表1 「5年後の地域の姿」の現状<全体>

単位：％

全体（N=64）	<現状できている> 5～4	どちらともいえない 3	<現状できていない> 2～1	無回答	加重 平均
(1)ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」をつくっている。	43.8	29.7	20.3	6.3	3.40
(2)地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。	25.0	35.9	29.7	9.4	2.95
(3)地域の中で生きがいを持って、生活することができる。	39.1	34.4	14.1	12.5	3.39
(4)地域で居場所づくりをする人や機会が数多くいる（ある）。	35.9	31.3	20.3	12.5	3.27
(5)ひとりで悩まずに、相談することができる場所（人）がある（いる）ことを知っている。	39.1	34.4	15.6	10.9	3.49
(6)身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支えあっている。	40.6	26.6	18.8	14.1	3.31
(7)一人ひとりの生き方を理解しあっている。	29.7	31.3	28.1	10.9	3.05
(8)判断能力の低下などに関わらず、すべての人が地域の中で自分らしく生きている。	20.3	37.5	31.3	10.9	2.86

※表中の色分けは、割合が高いほど赤色、割合が低いほど青色となっている。

※表中の太字の数値は、<現状できている>または<現状できていない>よりも10.0ポイント以上高いもの。

【参考：2024年度結果との比較】

- ◇ <現状できている>の割合をみると、2025年度は2024年度に比べて5項目で増加、3項目で減少しています。特に『(1)ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」をつくっている。』、『(2)地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。』、『(6)身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支えあっている。』の3項目は、5.0ポイント以上増加しています。
- ◇ <現状できていない>の割合をみると、2025年度は2024年度に比べてすべての項目が減少しており、『(7)一人ひとりの生き方を理解しあっている。』を除く7項目で10.0ポイント以上の減少となっています。
- ◇ 『(2)地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。』以外の項目は、概ね2024年度と同様な傾向となっています。

	<現状できている>		<現状できていない>	
	2024年度 (N=61)	2025年度 (N=64)	2024年度 (N=61)	2025年度 (N=64)
(1)ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」をつくっている。	34.4	43.8	31.1	20.3
(2)地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。	19.7	25.0	52.5	29.7
(3)地域の中で生きがいを持って、生活することができる。	41.0	39.1	24.6	14.1
(4)地域で居場所づくりをする人や機会が数多くいる（ある）。	32.8	35.9	39.3	20.3
(5)ひとりで悩まずに、相談することができる場所（人）がある（いる）ことを知っている。	39.3	39.1	26.2	15.6
(6)身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支えあっている。	34.4	40.6	36.1	18.8
(7)一人ひとりの生き方を理解しあっている。	27.9	29.7	31.1	28.1
(8)判断能力の低下などに関わらず、すべての人が地域の中で自分らしく生きている。	21.3	20.3	41.0	31.3

「加重平均(加重算術平均)」について

加重平均(加重算術平均)とは、値ごとに設定された重み(ウェイト)を考慮し、平均を求める手法。算術平均(合計値を個数で割る)とは異なり、値に重みを掛けて合計し、重みの合計で割り、平均を求める。

$$\text{加重平均} = ((5\text{の個数} \times 5) + (4\text{の個数} \times 4) + \dots + (1\text{の個数} \times 1)) \div (5\text{の個数} + 4\text{の個数} + \dots + 1\text{の個数})$$

3. O T Aふれあいフェスタの参加者アンケート

(1) 回答結果

- ◇ 2025年11月1、2日に催された「O T Aふれあいフェスタ2025」の大田区社会福祉協議会のブースに訪れた一般の方に対してアンケートを行い、182名の方より回答をいただきました。

(2) 集計結果

① 参加者の性別・年代

- ◇ 参加者の性別は、男性が23.6%、女性が75.8%となっています。
- ◇ 参加者の年代は、「40代」が32.4%で最も多く、次いで「30代」が29.1%、「50代」が13.2%と続いています。

図8 参加者の性別<全体>

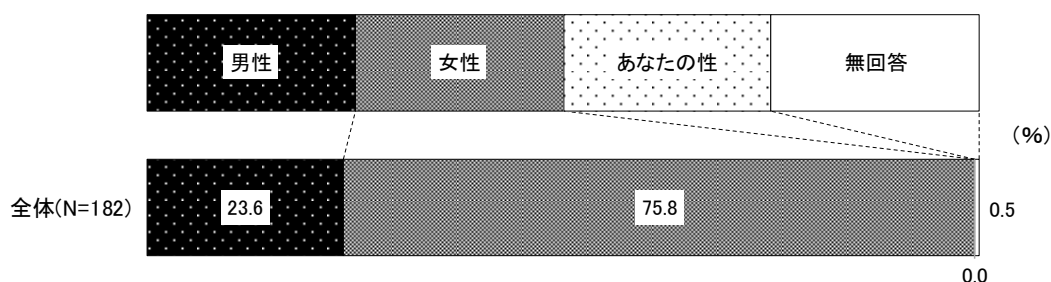
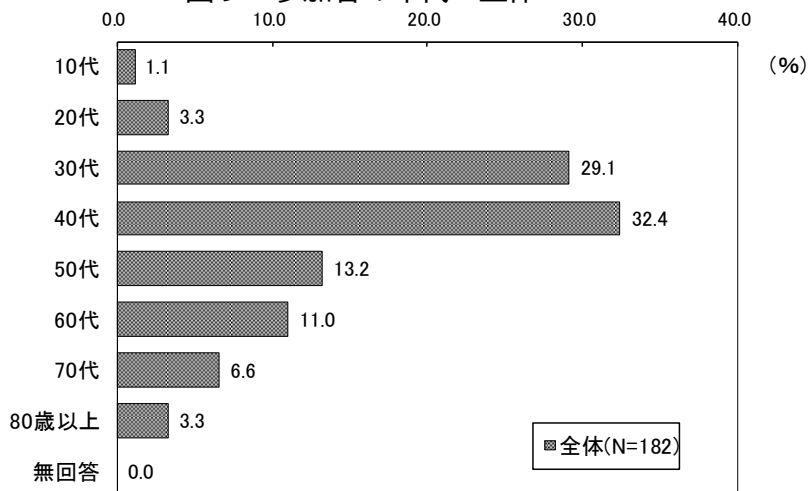


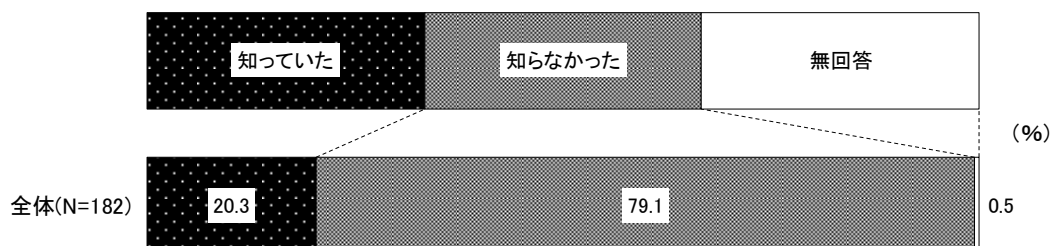
図9 参加者の年代<全体>



② 「第7次大田区地域福祉活動計画」の認知度

- ◇ 「第7次大田区地域福祉活動計画」の認知度をたずねたところ、「知っていた」が20.3%、「知らなかった」が79.1%となっています。

図10 「第7次大田区地域福祉活動計画」の認知度<全体>



③ 「5年後の地域の姿」の現状

- ◇ <現状できている>の割合が<現状できていない>より高い項目は7項目あり、そのうち『(4)地域で居場所づくりをする人や機会が数多くいる(ある)。』(35.2%)、『(5)ひとりで悩まずに、相談することができる場所(人)がある(いる)ことを知っている。』(40.7%)、『(7)一人ひとりの生き方を理解しあっている。』(36.3%)の3項目は、<現状できていない>より10.0ポイント以上高くなっています。
- ◇ <現状できていない>の割合が<現状できている>より高い項目は、『(2)地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。』(44.0%)のみとなっています。
- ◇ 一方で、8項目中6項目で「どちらともいえない」の割合が最も高く、そのうち3項目は40.0%以上となっています。

表3 「5年後の地域の姿」の現状<全体>

単位：％

全体 (N=182)	<現状できている> 5～4	どちらともいえない 3	<現状できていない> 2～1	無回答	加重 平均
(1)ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」をつくっている。	33.0	34.1	32.4	0.5	3.02
(2)地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。	17.0	37.9	44.0	1.1	2.62
(3)地域の中で生きがいを持って、生活することができる。	28.0	42.3	26.9	2.7	3.04
(4)地域で居場所づくりをする人や機会が数多くいる(ある)。	35.2	39.6	23.6	1.6	3.15
(5)ひとりで悩まずに、相談することができる場所(人)がある(いる)ことを知っている。	40.7	35.2	23.1	1.1	3.25
(6)身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支えあっている。	33.0	39.0	26.4	1.6	3.10
(7)一人ひとりの生き方を理解しあっている。	36.3	40.1	22.5	1.1	3.20
(8)判断能力の低下などに関わらず、すべての人が地域の中で自分らしく生きている。	29.7	48.4	20.3	1.6	3.15

※表中の色分けは、割合が高いほど赤色、割合が低いほど青色となっている。

※表中の太字の数値は、<現状できている>または<現状できていない>よりも10.0ポイント以上高いもの。

OTAふれあいフェスタでのアンケートの意見欄より

声掛けを心掛けている(40代 女性)
つながりが少ない 老人が増加しているのに老人会の入会者が減少している 物価高など老人の生活がますます低下している(70代 男性)
近所に同世代の人がいて話しやすい(30代 女性)
マンションだとつながりを持つのが難しい(30代 女性)
地域での交流が少ない(40代 女性)
ひとり一人が支え合って生きていると感じる(60代 男性)
自分自身が地域に関わっていない(30代 女性)
住民同士でそういったことを話したことがない(40代 女性)
気軽に声をかけていいのかわからない社会になっている気がする(30代 女性)
つつい関わり方におっくうな気持ちになってしまい、行動を起こせていない(40代 男性)
マンションの組合活動に参加している(40代 男性)
地域で起きていることなど知らないことがたくさんある (20代 女性)
他県からの人間のため関係が薄い(40代 男性)
人との「つながり」を避けているような気もする・・・(50代 女性)
障がい者の方々にもっと手を差し伸べることができれば良いと感じる(40代 女性)
近隣の方とのつながりが薄い(60代 男性)
人づきあいができてない(30代 女性)
あまり地域と接点がない(40代 男性)
自分のことと子供のことで毎日あつという間で地域のことが気になるができていない(40代 女性)
地域の方との関わりがあまりない(30代 女性)
父が病気で倒れ要介護になって以来、リサーチを続け、相談する機会を増やした(30代 男性)
個重視の世相の現れかと(70代 男性)
声掛け大事だと思っている(50代 女性)
少しずつ良くなっていると思うから みんながみんなを思いやる気持ちをもてますようにと願っております(40代 女性)
100歳の方にお手紙を書く取組が素敵だなと思います。みんなが幸せに長生きできる社会を作っていけたらと思いました。(40代 女性)
地域のコミュニティが減っている 多様化が進んでいるため(30代 女性)
自分がどうするかで未来が変わってくるから(40代 男性)
起きている課題を話す機会はありませんように感じる。時間もありません。
相談できる場所を知っているが利用はしていない。(30代 女性)
日頃の話はするけど、具体的に何か解決策をというのはできていない(30代 女性)

資料 3-2

「支え合って」と言われるとできているか考えてしまう(30代 女性)
団地に住んでいるので他のマンションと比べると人との関わりは多いと思う(50代 女性)
近所の方達が良く話したり交流したりしているのを日常で見掛ける(30代 女性)
地域のつながりの部分が少し難しい おまつりなどで交流もできている(40代 女性)
困っている人がいたら助ける(60代 女性)
なるべく声掛けする(60代 女性)
人口も多く、逆になかなか人と触れ合う機会が少なかったと思います(50代 女性)
あまり交流ができていない 100歳まで生きるなら交流は大切ですね！頑張ります！(50代 女性)
情報収集不足 小学校(子ども)のつながりあり(30代 男性)
みんな優しいので子育てなどで悩んでいても助かる(40代 女性)
人々が忙しすぎるのでしょうね。もう少し人々に時間やお金などのゆとりがある必要を感じます。(40代 男性)
近所の子どもやお年寄りに声をかけると不審者と間違われることがあり、気軽に声を掛けられない。(50代 女性)
子育て支援チラシ等で色々な情報をよく見る(20代 女性)
地域で何をやっているのかわからない。子供がいると年配の方と交流する機会が少ないので、もっとイベントなどで交流できるといい。子供は年配の方が好きなので。(40代 女性)
地域のボランティアをしている(60代 女性)
地域のことをあまり知らない(10代 男性)
気軽にコミュニケーションを取ることが難しい世の中になっていると思う(40代 男性)
地域・地元で交流していない 実家の周りや学校の知り合いと交流(40代 女性)

第7次大田区地域福祉活動計画 進捗状況管理表

基本理念:みんなでつくる 共につながりあう まち

基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和7年度の主な取組	令和7年度上半期の進捗状況・実績
			大田区社会福祉協議会と一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
1 顔が見える関係性を大切にするまち	ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」を作っている	取組1:日常的にゆるやかにつながり、災害時などに助けあえる関係性をつくろう。	<p>・住民がイベント情報や地域の取組を共有できるよう地域の情報をシェアしやすいオンラインプラットフォームを構築します。</p> <p>・写真や投稿を通じて、コミュニケーションの輪を広げます。</p> <p>・自治会・町会、民生委員児童委員と住民、地域活動団体、社会福祉法人、企業がつながることの大切さをあらためて再認識し、住民相互の活動への参加や協力を積極的行えるよう、情報提供や集う場の設定を支援します。</p>	<p>・地域福祉コーディネーターが積極的に地域に出向き、望まない孤独・孤立を抱えている人が地域とつながれるよう支援します。</p> <p>・身近な場所で開催する災害ボランティアに関する講座などを通じて、日頃から地域の中でつながりを持っていることが災害時のささえあいの基礎となることをお伝えし、講座に参加された人同士がつながりを持つ機会となるよう事業展開します。</p>	<p>【地域共生担当】 望まない孤立・孤独を抱えている人が地域とつながれる支援体制の構築のため、重層的支援体制整備事業における参加支援事業について令和7年度は定期的に行政との定例会を実施し、各ケースについて共有しながら参加支援プランの作成を進めることで、地域資源と本人とを効果的につなぎ、孤独・孤立の解消を図っていきます。</p> <p>【ボランティア担当】 ・災害ボランティア事業 7月に初心者講座、秋にリーダー育成講座、年明けに災害ボランティアセンター設置・運営訓練の実施を予定しています。初心者講座は参加者にいきなり災害ボランティアについて知ってもらうよりも、実際に起きうる災害や減災など身近な課題から学んでもらう方向で検討しています。リーダー育成は実際に使用可能な防災器具等を使用した訓練を検討しています。</p> <p>・ご近所さん事業 「ご近所さんサポーター」が概ね1歳の誕生日までに毎月子育て世帯を訪問し、ちょっとした声かけや地域の情報提供をします。それにより、利用者の子育てへの不安を和らげ、地域とのつながりづくりを支援します。</p> <p>・れいんぼう事業 コロナ禍で中断していた一般公募を再開し、昨年同様、学習・食育・健康・園芸のプログラムを毎月実施します。子ども民生委員として地域のお祭りへの参加や街頭募金活動などを行います。また、法人協のれいんぼう事業としての位置付けを明確にするため関連法人の事業参加を促していきます。</p>	<p>【地域共生担当】 参加支援事業について、新たに行政との2か月に1度の定例会を設け、2回定例会を実施しました。定例会では、7件のケースを検討し、3件のプランを作成しました。</p> <p>【ボランティア担当】 ・災害ボランティア事業 災害ボランティア登録者 123 名 普及啓発事業として 7/11「地域のなかで、なにができる-災害に備えて-」と題して大田区危機管理課から風水害の被害想定・避難についての講話と発災時に必要なことをグループ話し、参加者 19 名で活発な意見交換を行いました。</p> <p>・ご近所さん事業 現在の利用者数 39 名 活動サポーター22 名 嶺町地区に利用希望が増加傾向にあります。7/26 サポーター連絡会(ほほえみごはんサポーターと共催)に 15 名参加。「子どもの権利条約について」の講座とグループワークによる意見交換を行いました。</p> <p>・れいんぼう事業 本年度一般募集で3名の申込みがあり、総勢 19 名で各プログラムを実施しています。6/21 子ども民生委員の発令式を行い、10/19 地域のイベントに参加し、民生委員の活動紹介を行いました。</p>

基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和7年度の主な取組	令和7年度上半期の進捗状況・実績	
			大田区社会福祉協議会と一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること			
	地域で起きていることについて、住民同士と一緒に考えている	取組 2:同じ地域で暮らす人々や、活動を行う団体、企業がつながりあえる場をつくり、地域の中での困りごとを受けとめよう。	・地域で暮らす人や活動する人などが集う場を設け、地域の課題や困りごとなどを受けとめ解決に向けた動きを共に考える機会とします。 ・オンラインも含めた気軽に話せる場づくりを検討し、多様な形での交流を実施します。 ・住民懇談会で本計画の進捗状況について意見交換し、今後の取組につなげていきます。	・プラットフォームから生まれた新たな地域の取組を支援し、地域づくりにつなげます。 ・地域の中のさまざまな活動団体などの情報を整理し、その情報を必要とする人に届くよう提供するしくみを整えます。	【庶務・計画担当】 ・住民懇談会 昨年度に引き続き、7月末に住民懇談会を開催します。区報に記事を掲載し、開催日も日曜日を加えるなどして、参加者増を目指します。また、オンライン開催や会合に伺って意見聴取する機会づくりについても検討します。 【地域共生担当】 現在、4か所実施しているプラットフォームについて、各地域の課題や状況に応じて複数回実施していきます。実施結果については、SNSやHP等を通じて発信していきます。また、今年度1か所のプラットフォームの新規立ち上げを目指し、立ち上げ以前の地域との信頼関係の構築や地域課題の把握に努めます。	【庶務・計画担当】 ・住民懇談会 予定どおり実施し、4会場合計で70名の参加がありました。開催日を平日だけでなく休日（日曜日）も設けました。また、住民懇談会に参加された方から、自身の所属する団体で計画の話をしてほしいという依頼が入っており、これを皮切りにこちらから出向いて意見を伺う場を増やしていきます。 【地域共生担当】 上半期のプラットフォーム実施回数は4地区合計で13回実施しました。その他、地域の課題解決に向けた検討会やイベントの実施などの活動も行い、SNSやHP等で発信しました。また、11月を目途に新たに馬込地区でのプラットフォームの立ち上げを予定しています。	
2	自分の居場所や役割があるまち	地域の中で生きがいを持って、生活することができる。	取組 3:地域の活動などに参加したり、役割の担い手になったりすることで、いきいきと過ごせるようにしよう。	・さまざまなボランティア活動や地域活動などへの参加のきっかけを作り、地域の中での新たな活躍の場を広げます。 ・大田区社会福祉法人協議会（おおた福祉ネット）として「ふくしのしごと市」を開催し、福祉専門職や資格がなくても働ける職も含め、担い手づくりを進めます。	・地域で活動する団体の担い手不足と地域で活動してみたいと考える人の情報をつなぎ、つながりと交流の場を広げます。 ・高齢者や産前産後の人、障害のある人への家事支援を行う「絆サポート」や、見守りが必要なご家庭への定期的な訪問活動「ほほえみごはん事業」「ご近所さん事業」、一人暮らし高齢者の安否確認を兼ねた訪問活動「ほほえみ訪問事業」などを、住民のささえあい活動により展開することで、幅広い年代の人が性別や経歴を問わず活躍でき	【ボランティア担当】 ・絆サポート事業 子育て世帯が地域とつながる機会を増やすため、絆サポート産前産後サービスの利用期間を拡大（産前8週・産後12週→産前16週・産後24週）します。より多くの地域住民が、絆サポートを通して、地域の中で役割を持つことのできる活動に参加できるよう、絆サポーター出張登録説明会の機会を増やし参加の拡大に取り組めます。 ・ほほえみ訪問 研修会や連絡会を年2回開催し、活動のフォローを行います。訪問時の対応方法、傾聴の方法などを学び、サポーターのスキルアップを図ります。また、サポーターが活動で感じている疑	【ボランティア担当】 ・絆サポート事業 絆サポート産前産後サービスの利用期間を拡充したことで、利用者数が増えました。産前産後の時期を迎える世帯に関わる機会が増え、生活の実態について把握できるようになりました。地域包括支援センターとともに絆サポーター出張登録説明会の開催や、各種イベントでのポスター掲示、チラシ配布を行い、地域住民の参加の拡大に向け絆サポーターの周知を図りました。絆サポーター出張登録説明会を6/20 シニアステーション入新井 9/30 シニアステーション千束、で実施し、計15名参加がありました。7/29 絆サポーター連絡会（B カフェ）を開催しました。高齢福祉課からあらためて「介護保険総合事業、絆サポートの説明」をしていただきました。 ・ほほえみ訪問 現在の利用者数61名 活動サポーター35名 12/13『ボランティアのつどい』で行われる「つながりサポーター養成講座」をサポーターの研

基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和7年度の主な取組	令和7年度上半期の進捗状況・実績
			大田区社会福祉協議会と一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
				<p>るよう取り組みます。</p> <p>・特技を披露したり、使用済み切手を整理したりするなど、ボランティア活動にもさまざまな形があり、それぞれにあった活動の紹介をすることで、支援を受けている人も支援する側にまわることができ、それがやりがいや生きがいづくりにもつながるようコーディネートします。</p> <p>・いくつになっても自分らしく役割を持って生活したい人のために、就労相談やセミナーを実施し、就労につなげていくことはもちろんのこと、地域貢献にも興味のある人を含めて幅広く役割づくりを支援します。</p>	<p>問や悩みを把握し、解決することで、継続した活動が行えるよう支援します。</p> <p>・ほほえみごはん 活動者が安心して活動を継続できるよう、連絡会や研修会の内容を充実させ、子育て世帯へのサポート力を高めていきます。また、活動者がモチベーションを維持向上できる様、関係機関と活動者が交流できる機会を創出していきます。</p> <p>【就労センター】 就労や社会参加活動等に関する支援を行います。 ・就労等窓口相談及び職業紹介(通年) ・個別カウンセリング(随時) ・再就職支援セミナー(2回/年) ・合同就職面接会(合同2回) ・就労出張相談会(3日×2回/年) ・社会参加活動等に関する情報提供(随時)</p>	<p>修会と位置付け、スキルアップを図ります。</p> <p>・ほほえみごはん 現在の利用者数 73 名 活動サポーター63 名 7/26 サポーター連絡会(ご近所さんサポーターと共催)15 名参加。「子どもの権利条約について」の講座とグループワークによる意見交換を行いました。</p> <p>【就労センター】 就労や社会参加活動等に関する支援を行いました。 ・就労等窓口相談及び職業紹介(通年) 9 月末現在/求職者数 790 件、紹介件数延 176 件 ・個別カウンセリング 9月末現在/延 32 回実施 ・予約制再就職支援セミナー(2回/年) 9 月末現在/1 回実施 40 人参加・残 1 回 ・合同就職面接会 1 回(2 回/年) 9 月末現在/1 回実施 24 人参加 ・就労出張相談会(6 回/年)下半期実施予定 令和 7 年度の前記各事業については、当該事業に参加する求職者等の参加を更に促進するため、講師や内容・回数など、実施方法を見直し検討を行い、実施しています。</p>
	地域で居場所づくりをする人や機会が数多くいる(ある)。	取組 4:居場所を提供する団体などを支援し、人が集う機会や役割を増やそう。	<p>・居場所の確保や運営スタッフの確保に困った時には、大田区社協のさまざまなネットワークを駆使し、活動が継続できるように支援します。</p> <p>・大田区社協の持つ広報手段を活用し、団体の活動PRを支援します。</p> <p>・新たに居場所づくりに取り組みたい団</p>	<p>・地域福祉活動団体支援事業やつどいの場支援事業を通じて居場所を運営する団体を支援します。</p> <p>・「歳末たすけあい・地域ふれあい募金」を活動団体支援のために活用します。</p> <p>・地域福祉コーディネーターによる地域づくり支援の一環として、居場所を必要とする人を居場所に</p>	<p>【地域共生担当】 地域福祉コーディネーターの活動の中で、居場所の立ち上げ等に携わるとともに、個別支援で関わった方を公的なサービスのみならず、居場所につないでいくことで、支援されるだけでなく、支援する側へ回れる機会を提供していきます。</p> <p>【ボランティア担当】 ・地域福祉活動団体支援事業(通年・イベント・トライアル)、「つどいの場」運営支援事業 6月に審査会を実施し、助成団体を決定します。また、助成を受けた団体同士の横のつながりづくりにも着目し、情報交換等をする機会を設けることで、団体の活動の拡がり課題解決</p>	<p>【地域共生担当】 個別支援で関わった方の参加支援件数は28件となっており、そのうち居場所の参加を継続されながら運営に関わっているケースが複数みられました。</p> <p>【ボランティア担当】 ・地域福祉活動団体支援事業(通年・イベント・トライアル)、「つどいの場」運営支援事業 地域福祉活動団体 通年団体 59、イベント団体9、トライアル団体4計 72 団体申請、助成。つどいの場団体 10 月末現在、111 団体が申請し、80 団体に助成決定しています。</p>

基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和7年度の主な取組	令和7年度上半期の進捗状況・実績
			大田区社会福祉協議会と一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
			<p>体や個人からの相談に応じ、支援します。</p> <p>・さまざまな助成金に関する情報を提供するなど、活動の継続を支援します。</p>	<p>つなげるだけでなく、居場所の運営などの活動を、地域で支える働きかけを行います。</p> <p>・区内の居場所の情報が必要な人に向けてリストを作成し、SNSを含めたさまざまな手段による情報発信を行います。</p>	<p>に向けた取組が共にできるよう働きかけます。</p> <p>・大田区子ども食堂連絡会 連絡会規約を基に幹事団体を選出し、幹事団体を軸に連絡会の運営を行っていきます。また、多様化することも食堂の運営や課題を連絡会の中でどのように解決していくか、団体と行政・専門機関等を交えて検討していきます。</p>	<p>本年度からは、地域福祉活動団体とつどいの場ともにそれぞれメーリングリストを作成し、社協や団体同士の情報交換できるツールとしています。</p> <p>・大田区子ども食堂連絡会 参加 68 団体 7/17・11/12 子ども食堂連絡会全体会を開催し、計 42 団体(延べ 53 団体)の参加がありました。 11 月開催時には、リボン計画と地域福祉コーディネーターとの連携を踏まえたグループワークを実施しました。 また、初めて会場を大森地区に移し、参加傾向の地域的な検討を試みました。</p>
3	身近なところでさえあうまち	<p>ひとりでも悩まずに、相談することができる場所(人)がある(いる)ことを知っている。</p> <p>取組 5:地域の中には気軽に相談できる場所(人)がある(いる)ことを知り、ひとりで悩んでいる人がいたらそのことを伝えよう。</p>	<p>・地域の身近な相談窓口である民生委員・児童委員の活動を、住民の皆さんに幅広く知っていただけるよう、大田区社協において周知や支援活動を行います。</p> <p>・民生委員・児童委員をはじめ地域の方々から、大田区社協に寄せられた相談を受けとめ、関係機関との調整を行います。</p> <p>・困りごとを抱えた人の支援方法について、関係機関などと一緒に考え、チームで支えていけるような体制づくりを行います。</p>	<p>・地域の人からの困りごとを受けとめ、専門機関につなげます。</p> <p>・進学の際の受験費用や塾代など、または学費などについてお困りの人の相談を受け、支援します(受験生チャレンジ支援事業など)。</p> <p>・生活の困りごとの相談を受け、支援します(生活福祉資金貸付事業)。</p> <p>・地域のイベントに参加する際は地域福祉コーディネーターによる相談ブースを設け、大田区社協の存在と役割を知ってもらえるよう努めます。</p>	<p>【地域共生担当】 地域の人からの困りごとを受け止める活動とともに、地域福祉コーディネーターだけが受け止める体制から、地域の方と共に考え、取り組める仕組みの検討を行い、より多くの相談が早期に相談できる体制づくりに取り組みます。</p> <p>【生活相談担当】 ・貸付事業の相談窓口という役割を活用しながら、引き続き、広く区民の生活課題・福祉課題を受け止め、解決につながる相談支援を行います。 ・社協内他部署や関係機関を横断した相談支援を展開していくため、関係機関等との連絡会・勉強会を定期的に開催し、生活困窮者支援に関わる担当者とのさらなる連携強化を図ります。 ・教育支援資金(生活福祉資金)や受験生チャレンジ支援貸付事業貸付金の借入相談者に対しては、家庭における経済的な理由が子どもの進学への妨げとならないよう本貸付金の手続きに加え、他の給付金、助成金及び奨学金等関連施策への橋渡しを行います。 ・計画的な研修受講等により、相談員の相談対応力の向上に努めます。</p>	<p>【地域共生担当】 今年度地域福祉コーディネーターの関わっているケースは 219 ケースとなっています。現在、コーディネーターのみで課題に取り組む体制から地域の方とともに考え、取り組める仕組みの検討を行っており、他社協への視察や区との検討を行い、大田区らしい相談の体制について検討しました。</p> <p>【生活相談担当】 ・生活福祉資金貸付事業では、貸付相談延件数 1,412 件、償還相談延件数 597 件の相談に対応し、貸付決定件数は 30 件(教育支援資金 12 件、生活保護世帯対象エアコン等生活必需品等の購入費 15 件、生活保護受給者国民年金保険料経費 1 件、緊急小口資金 2 件)となりました。 ・受験生チャレンジ支援貸付事業では、貸付相談延件数 775 件、償還免除に係る相談延件数 451 件の相談に対応し、貸付決定件数は 39 件となりました。 ・ケースワーカーとの連携強化を図るため、4 生活福祉課の全体係長会にて「生活保護世帯対象エアコン等生活必需品等の購入費の貸付」についての説明をおこないました(5 月)。</p>

基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和7年度の主な取組	令和7年度上半期の進捗状況・実績
			大田区社会福祉協議会と一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
	身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支えあっている。	取組 6: ボランティア活動や企業などの地域貢献活動を通じて、地域の中の困りごとを受けとめ、みんなで支えあおう。	<p>・地域の中にある生活課題を、地域全体として受けとめ、それぞれがどのようなことができるかを一緒に考えていきます。</p> <p>・一つの団体の解決が難しい課題についても、地域のネットワークを活かしながら、複数の団体や企業などと一緒に解決に向けて取り組めるように、調整を行います。</p>	<p>・ボランティア活動を行いたい人の相談に応じ、活動ができるように支援します。</p> <p>・気軽にできるボランティア活動(使用済み切手整理など)や地域貢献活動(フードドライブなど)のプログラムをつくっていきます。</p> <p>・地域貢献活動を行いたい団体や企業の相談に応じ、活動を支援していきます。</p> <p>・地域貢献活動を行う団体や企業について幅広く周知し、さらに地域貢献活動が広がるよう、周知や啓発に取り組めます。</p>	<p>【地域共生担当】 地域課題を住民同士で話し合う場をつくるプラットフォーム事業の継続・拡充を行います。プラットフォーム事業以外にも、住民同士が話し合える場の設定や仕組みづくりについて検討していきます。</p> <p>【ボランティア担当】 ・夏！体験ボランティア事業 区内の文化施設と共同し新たなプログラムを創出するとともに、様々な福祉施設、活動団体と共にプログラムを充実させ、区民が地域の課題に共に取りくみ考える機会をつくっていきます。</p> <p>・おおたフード支援ネットワーク事業 常設のフードドライブの拠点ができていますが、臨時のフードドライブ事業も継続して行います。また、フードドライブ～フードパントリーまでを一貫して行う地域も出てきており、企業の地域貢献活動の一環として行うフードドライブもその輪を広げつつあります。そのような中で、地域や企業が地域住民と食を通じて繋がりがうしくみづくりをこれまで以上に推進していきます。</p> <p>・企業の地域貢献活動推進事業 令和6年度は、CSR活動に取り組む企業40社と連携・協力し、社内フードドライブを実施しました。令和7年度は、実施する企業をさらに増やし、フード支援につなげ、企業の地域貢献活動を推進します。</p> <p>・ボランティア活動推進事業 「おおた広がれボランティアのつどい2026」の開催を目指して、活動者とともに実行委員会を立ち上げます。実行委員の公募の方法としてセンターにつながる活動者を対象に「ボランティアのつどい2025」を1回開催し、活動者のスキルアップを図るとともに活動者同士の交流と繋がりを広げます。</p>	<p>【地域共生担当】 プラットフォーム事業以外にも、児童養護関係者のネットワークや医療事業者と地域住民とのネットワークなど、いくつかの地域でネットワークの立ち上げを行いました。</p> <p>【ボランティア担当】 ・夏！体験ボランティア事業 申込み179名、受入団体82団体 新たな受入先として東京港野鳥公園などに声掛けをし、多様な体験機会を設けました。</p> <p>・おおたフード支援ネットワーク事業 一般151名、企業14社から4,708kgの食料寄附をいただきました。 また、9/15 グラデュオ蒲田フードドライブを実施し、27名から67.4kgの寄附をいただきました。</p> <p>・企業の地域貢献活動推進事業 フードドライブの他にスタディードライブや福祉教育へのプログラム参加など貢献活動に幅が出てきています。</p> <p>・ボランティア活動推進事業 12月に「ボランティアのつどい2025」を開催し、大田区社協の各事業で活躍されているボランティア同士の横のつながりを構築するとともに、これからボランティアを始めようとする方へのきっかけづくりを行います。</p>

基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和7年度の主な取組	令和7年度上半期の進捗状況・実績
			大田区社会福祉協議会と一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
4	お互いを認めあい誰もが自分らしく暮らせるまち	一人ひとりの生き方を理解し合っている。 取組 7:地域で暮らすさまざまな人たちへの理解を深めるために福祉学習に参加しよう。	<p>・教育現場における福祉学習にとどまらず、地域共生社会の実現に向けて、世代や分野を超えた幅広い視点において、多様性の理解を深める機会を作ります。</p> <p>・さまざまな団体で実施している学習会などを広く周知し、多くの人が参加できるようにします。</p>	<p>・福祉学習の進め方やプログラムの内容などについてアドバイスし、スムーズに実施できるよう支援します。</p> <p>・福祉学習の実施に必要な、講師の紹介や協力団体とのマッチング、物品の貸し出し(福祉体験用具など)を行います。</p> <p>・地域で暮らす外国人の支援について、身近な地域の中で話しあう場をつくりまします。</p> <p>・未来を担う小・中・高校生や若者への福祉教育を推進し、障害者をはじめ多様な人たちへの理解が深まるよう支援します。</p>	<p>【ボランティア担当】</p> <p>・夏！体験ボランティア事業 教育委員会と連携し区内の公立小中学校への広報を強化します。また、参加者向けのオリエンテーション動画を作成し、参加者が充実したボランティア学習に取り組めるようサポートしていきます。</p> <p>・福祉学習 学校を中心に実践の場を増やし、学習のプログラムを進めるにあたっては、より多くの地域の団体、地域住民、福祉の専門職と協働しながら、大田区における福祉教育の理念を確立できるよう、しくみを作ります。</p> <p>【地域共生担当】 ボランティア担当と連携し、様々な方と協力する福祉教育プログラムの作成に取り組みます。また、学校以外の場での福祉教育の取り組みについても検討していきます。</p>	<p>【ボランティア担当】</p> <p>・夏！体験ボランティア事業 今年度は教育委員会を経由し、PTA会長会で事業案内をするなど、参加者増に向けた周知を行いました。</p> <p>・福祉学習 小中学校での福祉体験学習だけではなく、地区民生委員や企業、地域のイベントなどでも体験学習を行うなど、対象を広げて実施しています。 福祉体験学習を行っている団体と学習プログラムの作成に向け検討を行っています。 福祉体験学習を共に行った小学校、団体、当事者に登壇いただき、地域住民を対象とした「福祉教育セミナー」を開催し、大田区における児福祉教区の取組みを知ってもらう機会を作りました。</p> <p>【地域共生担当】 ボランティア担当と連携して、各地域の学校の要望に応じた生徒と地域をつなぐオーダーメイドのプログラムに取り組み、福祉教育セミナーの発表につながりました。</p>

基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和7年度の主な取組	令和7年度上半期の進捗状況・実績
			大田区社会福祉協議会と一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
	判断能力の低下などに関わらず、すべての人が地域の中で自分らしく生きている。	取組 8:障害や認知症などの有無にかかわらず、誰もが自分らしく生きられるよう、権利擁護の推進をはじめとした支援について理解しよう。	<p>・地域で暮らす方々が、自分らしい生活を継続するために、複雑な困りごとを抱えていても、地域の中でサポートできる連携ネットワークをつくります。</p> <p>・権利擁護の研修や事例検討会などを通して、関係機関との顔の見える関係をつくり、チーム支援をしやすい体制づくりを行います。</p> <p>・「親なきあと」の取組について、親の不安や悩みに寄り添いながら、老いじたく講演会や親なきあと講演会などを一緒に企画します。</p> <p>・市民後見人や地域で意思決定支援に携われる人材の育成や支援に取り組みます。</p>	<p>・成年後見制度推進機関として、障害や認知症により権利が損なわれないよう成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の周知啓発を行い、関係機関と連携して制度の利用に関する相談支援を行います。</p> <p>・福祉法律相談など住民の権利が守られるよう法律の専門家に気軽に相談できる場をつくります。</p> <p>・[地域版]老いじたくセミナーなど、専門職団体や行政機関と共同して、権利を守るための研修会を実施します。</p> <p>・中核機関として権利擁護支援検討会議を開催し、個々のケースに応じた支援が実施できるよう、各機関・福祉事業者が専門家からのアドバイスを得られる機会をつくります。</p> <p>・親族後見人の悩みなどを共有しながら、後見人としての活動をサポートします。</p> <p>・民生委員・児童委員協議会や自治会・町会などの集まりなど、地域の身近な場において、老いじたく</p>	<p>【おおた成年後見センター】</p> <p>・権利擁護の地域連携ネットワークづくり 一人ひとりの意思が尊重され、権利が擁護される地域づくりを推進、強化するための「地域連携ネットワーク強化部会」を年2回開催予定です。</p> <p>また、日常的な金銭管理を行う新たなしくみを検討するための「金銭管理勉強会」についても7月と12月に開催予定です。</p> <p>・老いじたくの推進 身近な地域において、老いじたくに役立つ知識等を、弁護士が講師となって説明する「地域版老いじたくセミナー」を特別出張所等と連携し、6地区で実施します。</p> <p>また、令和6年度に改定した老いじたくパンフレットを通じて、前向きに安心して暮らすための備えを提案していきます。</p> <p>・親なきあとの取り組み 障害者団体のみでなく、区内障害者施設・保護者会とともに講演会等を企画します。6月以降に実施予定です。</p> <p>・受任調整支援の検討 適切な後見人等の選任・交代に向けた受任調整支援のしくみづくりを検討していきます。</p> <p>・権利擁護支援の推進（「市民後見人の育成・活躍支援」「出前講座」など） 地域のなかに、権利擁護支援への意識の醸成を図るために、社会貢献型後見人養成研修の基礎講習のあり方を見直します。自身に合った活動につながるだけでなく、地域への理解や関心が深まるよう、2つのコースからの選択制</p>	<p>【おおた成年後見センター】</p> <p>・権利擁護の地域連携ネットワークづくり 一人ひとりの意思が尊重され、権利が擁護される地域づくりを推進、強化するための「地域連携ネットワーク強化部会」を11/12に開催し、事例をもとに協議した。</p> <p>また、日常的な金銭管理を行う新たなしくみを検討するための「金銭管理勉強会」を7/10に開催し、大田区金銭管理の状況や身元保証会社の現状をもとに情報共有を行った。</p> <p>・老いじたくの推進 特別出張所と地域包括支援センターと連携し、3か年計画で実施してきた「地域版老いじたくセミナー」は、3年目を迎えました。共通理解を図るための出張所と包括職員向けのセミナーを5/23に実施した後、嶺町地区(7/8)、千束地区(11/13)にて開催しました。12月～令和8年3月にかけて、4地区(大森東・蒲田東・蒲田西・池上)にて開催予定です。</p> <p>また、10/24には老いじたく講演会を開催し、112名の参加がありました。</p> <p>そのほか、広く老いじたくの周知を図るため、「老いじたくパンフレット」詳細版の改訂を行い、新たに3,000部を作成しました。</p> <p>・親なきあと講演会 6/9区内福祉施設の保護者(22名)を対象に、成年後見制度の基本と実際に利用した際の事例をお話ししました。12月には障害児者親の会と支援者等を対象に実施予定です。</p> <p>・受任調整支援の検討 適切な後見人等の選任・交代に向けた受任調整支援のしくみづくりとして、10/23の権利擁護支援検討会議にて、検討用のシートの簡易版を使用して施行しました。</p> <p>・市民後見人の育成・活躍支援 令和7年度は、専門職が受任しているケースからのリレーや追加選任による複数後見ケース2件がスタートしています。(他準備中1件) 9/9「市民後見人交流会」を開催しました。後見活動のなかで感じる困りごとなどについて、専門職後見人もアドバイザーとして参加</p>

基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和7年度の主な取組	令和7年度上半期の進捗状況・実績
			大田区社会福祉協議会と一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
				くや成年後見制度についての出前講座を行います。	とし、地域福祉活動への参加や協力についても呼びかけていきます。 また、自治会・町会等をはじめとする地域団体や、福祉従事者が企画する成年後見制度や老いたく講座に職員を講師として派遣します。	し、意見交換を行いました。 11/11「市民後見人サポート連絡会」を開催しました。複数後見や監督人として市民後見人に関わる専門職5名の参加のもと、市民後見人の活動の報告や市民後見人が抱える課題へのサポートについて意見交換を行いました。 令和7年度は、「市民後見人養成講習」とともに新たに「権利擁護サポーター養成講習」を開設します。権利擁護サポーターとして、認知症や障がいに対する理解や、成年後見制度などの権利擁護支援の知識を学ぶことで、身近な地域での気づきを関係機関につなぐ役割を担います。11/7、8と募集説明会を実施し、市民後見人と権利擁護サポーターを希望する41名が参加しました。 ・出前講座 地域包括支援センター、地域福祉課、地域団体等7件の依頼に応じ、老いたくの推進や成年後見制度等の正しい理解に努めました。 また、今後、地域福祉コーディネーターと連携した医療機関への講師派遣等についても予定しています。